

流域の人々と歩む月刊誌

# くまがわ春秋

2017  
**10**  
第19号

## さかもと国際児童画展



376年ぶりに修復された青井阿蘇神社の神輿 ©山口啓三

火の国、水の国、  
焼酎の国。

球磨焼酎  
**緋月**



撮影：三宅伸太郎  
宇梶剛士

世界的な品評会で  
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles  
Wine & Spirits  
Competition 2015



飲酒は20歳を過ぎた後から、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に影響を与えるおそれがあります。

**緋月酒造株式会社**  
http://www.sengetsu.co.jp/  
〒868-0052 熊本県人吉市新町1番地

月刊 くまがわ春秋 第19号 2017年10月15日発行

企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社  
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号  
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759  
http://www.hitoyoshi.co.jp/ info@hitoyoshi.co.jp

定価 540円 本体 500円

雑誌 81779-10-7



4910817791076  
00500

# 最近のおもな出来事

- 9月16日(土)
  - ▽第72回熊本県民体育祭人吉球磨大会・開会式(人吉スポーツパレス)
- 9月20日(水) 彼岸入り
  - ▽相良三十三観音めぐり秋の一斉開帳(26日、都市35札所)
- 9月22日(金)
  - ▽人吉球磨美術連盟(絵画)連盟作品展(24日、人吉スポーツパレス)
- 9月23日(土) 秋分の日
  - ▽動物フェスタ2017(人吉クラフトパーク石野公園)
  - ▽ひとよし・くま市民劇場例会「こまつ座・紙屋町さくらホテル」(人吉カルチャーパレス)
  - ▽谷水薬師大祭(あさぎり町上)
- 9月24日(日)
  - ▽第10回人吉医療センター病院フェスティバル(同センター)
- ▽第5回ヤマメ釣り大会in五木(五木村平瀬地区)
- ▽第13回やまえ栗まつり(山江村体育館)
- 10月1日(日)
  - ▽第7回五家荘の日(八代市泉町振興センター)
- 10月3日(火)
  - ▽青井阿蘇神社鎮火式(神社境内)
- 10月9日(月) 体育の日
  - ▽青井阿蘇神社例大祭おくんち祭「神幸式行列」

## — 10月(第19号) 目次 —

### 坂本特集

さかもと国際児童画展に寄せて 上村美鈴 / 4  
 限界集落便り④ さかもとももこ / 8  
 球磨川大水害の記録(坂本②) つる詳子 / 14  
 八代高校ボート部の時代 橋本徳一郎 / 20  
 古屋敷のおじちゃん 上村雄一 / 24

柳人があじわう漱石俳句⑩ いわさぎ楊子 / 27  
 石橋を訪ねる⑦ 石水寺門前の「眼鏡橋」 / 28  
 書評『そらと陸の約束』久馬 凌 / 30  
 くまがわ狂句 村上鬼拳 / 32  
 田中一彦さんを囲む会 / 33  
 駅⑨「くま川鉄道・一武駅」松本晋一 / 34  
 くまがわの神さん仏さん⑭ 宮原信晃 / 39  
 ジョージ・ルイスの足跡⑤ 宮川 統 / 42  
 漢和字典は面白い② 鶴上寛治 / 47  
 「あがっ段」⑰ 上杉芳野 / 48  
 建築みてある記⑭ 森山 学 / 50  
 くまがわすじの考古地誌⑬ 木崎康弘 / 54  
 方言を味わう⑯ 前田一洋 / 58



今月の一言  
 『文読む月日』(レフ・トルストイ編著 北御門二郎訳)より  
 天性の素材さと、叡智からくる素材とがある。そしてその両者とも、愛と尊敬の念を招くものである。



表紙写真  
 「376年ぶりに修復された青井阿蘇神社の神輿」  
 3月から京都府で復元解体修理を行っていた国宝・青井阿蘇神社の神輿(みこし)の修理が先月9日に終わり、「おくんち祭」で一般に披露された。  
 撮影 / 山口啓二(人吉市)

木崎考古学と遺跡② / 60  
 私とツクシイバラとの出会い 野呂たけし / 64  
 意図した目的と予期せぬ結果 平岡優平 / 66  
 残照「川辺川」① 富永和信 / 69  
 字図で見る球磨の地名⑩ 上村重次 / 72  
 今月の詩⑱ / 75  
 おっとわつとあすび⑧ 松舟博満 / 76  
 倉敷便り⑩ 原田正史 / 77  
 マイ・文庫本『老人と海』 / 80  
 いもご短歌会 / 82  
 外来語から学ぶ英単語⑱ 藤原 宏 / 83  
 ひろしの：げっかん・ぎひょう / 83  
 湯前まんが美術館③ 溝下昌美 / 84  
 くまがわ学習塾⑩ / 87  
 不発の日本遺産観光 安田 功 / 88  
 今月の秀句⑧ / 90  
 東京で「青雲の志」講演 / 92  
 前号「くまがわ学習塾⑨の答え」 / 95

※誌面の都合により坂本福治さんの連載は休みました。

本誌の  
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅前)  
 ■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

## 配達

出前・仕出しは江戸時代に始まったらしいが、配達の由来は確認できない。ずいぶん古くからあったようでもあるし、出前・仕出しと同じ頃のようにも見える。

配達といつても多種多様で、一律に扱うことには無理がある。しかし、食材などの一部の商品をのぞけば、現在ではほとんどの人は配達の恩恵を受けているのではない。生協のように食材を配達する例もある。配達の対象になっていない商品を見つけるほうが難しいだろう。家具など配達してもらわないと困る商品もある。極端にみえるかもしれないが、配達なしに普通の生活をすくすくするのは難しい。

配達は人間労働の一部で、商品価格には配達の費用も含まれている。販売者のサービスと誤解している人もいるが、そんな馬鹿なことはない。無料のようにみえても、全体をならしてみれば、配達の費用はすべて商品の価格に転嫁されている。無価値の人間労働は存在しない。

費用を増加させるとしても、いまさら配達をなくせない。嫌というほどに高齢化は進んでいるが、もっと進みそうだが、そうなれば人手が問題になる。人口知能（AI）の進化、それにとまらぬロボットの高高度化が進まないかぎり人手不足を解消できない。配達が社会問題になる日もありうる。大げさではない。通販事業では運送費の値上げが二気に進んでいる。しかし値上げで人手不足は解決できない。

タクシー、バスの運転者数はAI進化を通じて減少すると予測されている。AIロボットに対する不安もある。将棋の世界のAIは勝ち負けのレベルでその能力を評価される。しかし配達は勝負ではない。AIロボットは生活スタイルを変えるであろう。それによって人間の思考方法も変化するだろうか。おそらく変わるであろう。いい方向に変化することを願う。

（春秋）

## 巻頭言

## 「マルシェ」盛況

### 人吉駅前通りで食のイベント

くま川鉄道の開業を記念したイベント「くまてつまつり」を応援する食の祭典「青井トキめきマルシェ」が

9月30日と10月1日の両日開催された。同通り街づくり振興会の主催で、

相良藩吉組などが実行委員となって開かれ、多くの人が様々な料理を堪能した。

通り沿いには、郡市内外の唐揚げ、ケバブ、シシ汁、焼き鳥など32店舗が並んだ。地元の人をはじめ、市内の観光を終えたツアー客などでにぎわった。

前夜祭として開かれた「球磨焼酎の夕べ」にも多くの人が訪れた。

人吉球磨の実行委員の吉組のメンバーは「今後もくま川鉄道と人吉の街を元気にしていきたい」と話していた。



人吉駅前通りで開かれた「青井トキめきマルシェ」



本格的なケバブの店も登場!



実行委員の吉組のメンバー

# さかもと国際 児童画展 開催直前！



アメリカ 8歳 男



熊本市 小学4年 女



ブルガリア 6歳 女



アメリカ 7歳 男



アメリカ 8歳 男



オランダ 14歳 女



八代市 5歳 女

## 子どもたちの笑顔

—さかもと国際児童画展に寄せて

実行委員会 上村美鈴

—2017年7月13日付、転送メール。

差出人マーロン・ティールマンズ  
こんにちは、上村さん。今週私は東京のナガシマエツコさんからメールで、「さかもと国際児童画展」の募集案内を受け取りました。

私はエツコさんを通じて、この20年間「横浜青葉国際児童画展」に、私の学校の子どもの絵を応募してきました。しかし、昨年から募集案内が来なくなってしまう、エツコさんに問い合わせたところ、同展は昨年

20回で終了し、今後は熊本県八代市坂本町で、横浜と同じ趣旨の新しい国際児童画展が開催されることになったので、この募集案内にある担当の上村さんに直接掛け合ってくださいという返信がありました——と、英文の丁寧な書き出しである。

その2週間前、私は以前から熊本地震後復興チャリティの相談をしていた横浜在住の母校の恩師山本澄子先生から、電話でオランダのティールマンズ氏とエツコさんの交流を詳しく伺っていた。

私は毎年、横浜青葉国際児童画展の終了後、お返しに、エツコさんから日本の子どもたちの絵をオランダに送ってもらい、老人ホームや病院、学校などのホールで展示してきました。

ついでに、あなたの町の児童画展が終了したら、これまでの横浜と同じく、日本の子どもたちの絵をオランダに送ってください。もちろんあなた宛に、私は必ずオランダの子どもの絵を送ります。

エツコさんが、あなたとコンタクトを取ってくれたことをたいへんうれしく思っています。今、私の学校の子どもたちが、テーマの「笑顔(SMILE)」を描く準備にとりかかったところです。どうかあなたも、私に日本の子どもたちの絵を送ってください——

切々と訴えるメールは誠実な人柄をものごとく、英語が不得手な私にも平明でよくわかる内容に心を打たれた。

山本先生によれば、ティールマンズ氏は、1992年に第1回世界盲人マラソン大会の伴走者として宮崎を訪れ、国際交流の大切さを身を以て知った。そのとき通訳のエツコさんに出会い、「自分は絵の教師をしているが、日本で国際児童画展を開催しないか」と相談したのだという。すぐには叶わなかったが、1995年にエツコさんが東京都内の国際交流協会から横浜市の担当になったときに、青葉国際交流ラウンジの中心的存在だった山本先生に相談し、翌1996年、山本先生らが「第1回横浜青葉国際児童画展」を立ち上げた。

テーブルを作る際に、ティールマンズ先生のアルファベットは解読不能なところが多く、引率の先生も私も子どもたちも、これは「M? N?」「こんな名前の上ルある?」「あ、フランス系? ドイツ系?」「わあ、アラビア語は読めない!」などと、ワイワイ言いながら英語以外の多様な言語を読み解き、楽しく作業を進めたのだ。このときから私は、ティールマンズ先生の学校と坂本中学校が、親しく交流する機会が必ずやってくるような気がしている。

募集は7月23日で終了、展示総数約1千百点、目標数の1千点を大きく超えた。「道の駅坂本」会場には、「お絵描きコーナー」も設けてあるので、来場当日の展示もある。締切り日はあつて無いようなもので、展示数はもっ

もちろんその応募第1号は、オランダのティールマンズ氏の学校からだった。

——ティールマンズ先生のご要望には、ぜひお応えしたい、実行委員会に図つてお返事しますね。坂本町の児童画展の後、子どもたちの絵は、北海道などで巡回展を開催します。それが終わるまで待つてほしいのですが——と、返信した。

——ありがとう。もちろん、私は子どもたちの絵の素敵な旅が終わるまで待つていますよ——と、2日後に氏からの返信があった。

廻つて6月末、横浜青葉ラウンジから350余点の児童画が送られてきていた。20年分約4千点の中から選んだ絵は、本展のテーマ「笑顔」にふさわしいものばかりだったが、そ

と増えることになる。

11月3日のオープニングには、国際的に活躍する「くまモン」が登場し、他にも楽しいアトラクションを用意している。絵は坂本町7会場に分散展示し、遠方からの来場者や車のない人でも、公共交通機関を使って楽しめる「坂本町の食と文化の温泉巡り」や、スタンプシールラリーのコース作りを、現在制作中だ。10月半ば頃にはできるので、「さかもと国際児童画展」で検索し、全世界に発信してほしい。

多くの人たちが坂本町を訪れ、世界中の子どもたちの「笑顔」に出会つて元気をもらい、素晴らしい里山の秋を堪能してほしいと心から願つてゐる。

【つえむら・みすず／八代市】

の中に、紙をヒトの掌の形に切り抜き、色紙を貼付けたたくさんの不思議な作品があった。いろんな解釈があるものだなあと思つてやり過ぎたが後日、名札の日付を見て、それがオランダから送られた1996年の第1号の作品であることが判った。横浜の人たちは、オランダとの20年に及ぶ友情を心から大切にしていって、敢えて今回これら第1号の作品を坂本町に送つてきたのだらうと推察した。

こんな経緯で、11月開催の「さかもと国際児童画展」は、まずオランダに繋がった。もちろん坂本町への第1号の応募もティールマンズ氏の学校からだ。

8月の夏休み、坂本中学校ボランティア部の子どもたちが絵の整理に事務局を訪れた。名前を書き出しデー

### 「さかもと国際児童画展」 2017年 11月3日(祝)～11月19日(日)

#### ◎会場【入場無料】

- ①道の駅さかもと ②温泉センター・クレオン(休) ③さかもと温泉・憩いの家(休)
- ④球磨川温泉 鶴之湯旅館 ⑤坂本コミュニティセンター ⑥鮎婦・西福寺
- ⑦西部多目的集会所

#### ◎オープニングセレモニー ※どなたでも入場できます。

会場：道の駅坂本 グランドゴルフ場 11/3(祝) 9:50～11:30

#### ◎主催 八代市坂本住民自治協議会 ◎共催 NPO 法人横浜青葉国際交流の会

#### ◎後援 八代市教育委員会／八代青年会議所／八代市立坂本中・八竜小 PTA／東京球磨川会／横浜市青葉国際交流協会

#### ◎問合せ さかもと国際児童画展 ☎080-6534-4428 ☎080-9140-0899

(検索：さかもと国際児童画展)

# 坂本想定外ライフ

さかもともむい



「日光棚田びくにつく」取材中の私

いつも「限界集落便り」を気が向いたときだけ(笑)書いております。坂本桃子です。だけど今回10月号は、坂本特集ということで、いつものコーナーはちよつと置いて、特別な内容にしたいと思えます。普段だったら書かないようなことも書いてしまうかもしれません。こういう記事はこれが最初で最後になるかもしれないかもしれません。お酒を吞んで少し酔っ払っている今、思い切って書くことにします。

私が坂本に帰ってきて、丸3年が経ちました。そして、ひよんなことからご縁があつて勤めることになつた坂本町のケーブルテレビの仕事をはじめ、まもなく3年。自分の知らないところで「ケーブルテレビの桃ちゃん」というイメージが町中にかなり浸透してしまつたようで、有難い気持ち半分、ちよつと待てよという気持ち半分。映像の仕事は初めてで、実を言うと興味もなくて、そもそも私は日常生活でテレビをほとんど見ません。数ヶ月だけボランティア

アでインタビュアーとしてお手伝いするという話から、まさかそのまま会社に就職することになるとは思つてもいなかったので、今回のこの「想定外」は、これまでの人生で起こつてきた数々のそれらをうわまわる、私の人生を長い目で見たときにとても大きなターニングポイントとなる「想定外」になつてしまつたようです。

私は前職では大分県安心院町のNPOで、グリーンツーリズムの修学旅行受け入れの仕事をしています。元々学生時代から中山間地域のまちづくりや地域再生に興味を持ち、当時大学生生活を送っていた福岡市内から小国町に半年間勉強のために通っていたこともありまし

た。学生の頃には既に、坂本に帰つて町を活気づけたいという野望があつたので、思えばそのためだけにここ数年間は突き進んできたようなものです。

うと思つていました。だけどかなり漠然としているから、それを聞いた

毎回、坂本に帰省をする度に寂しくなつていく自分の故郷の姿を見て、悲しみと絶望を抱いていたことを覚えています。なので坂本に帰つたら、かつて活気にあふれていた昔の良き時代の坂本に負けないような、暮らしていて楽しい、明るい、ワクワクするよう

な、暮らして楽しい、明るい、ワクワクするよう



日光棚田びくにつくでの記念写真

人は「じゃあ、具体的には何したいの」とか、「坂本を良くするためには何をしたらいいと思う？ ビジョンは？」とか、「〇〇県の〇〇村で〇〇っていう取り組みをしたらそれがすごい大成功して、坂本も似たような田舎の村だし、そやんとぼしたらどう!? 桃ちゃん!!」とか言ってくる人もいました。

でも果たして、他の地域で成功したと全く同じことを坂本でやってみて、うまくいくでも本当に思っているのでしょうか。これまで日本各地で取り組まれてきた、地域再生の先行事例を見たり、実際にその地域へ赴き、実践者の方から直接お話を聞いてきましたが、成功したといわれている地域では、いろんな条件やタイミングが重なり、ある意味偶然

ともいえる必然的な結果が起こっているのが事実です。そう、時に「想定外」なことから「想定外な成功」が生まれていたりするのです。もちろん、そこに辿りつくまで多大なる努力を重ねてきたことが前提ではありますが。



るのは嫌いだし、はたしてどれくらいの人が真剣にその地域のことについて考えているのだろうか」と心配になることもあります。その「まちづくり」って本当に地域のためになっているの?と。

私は二十歳の頃からずっと、私なりの「坂本のまちづくり」について考えてきましたが、今だに考え続

けていますし、きっとこれからもずっと考えることになると思います。まちづくりって料理とよく似ているなあど私は思っています。目の前にある食材や素材を活かして、知恵をしぼって工夫をこらしておいしいメ

ニューに仕上げる。同じ食材でも料理の仕方によって全然違うメニューができる。その時期にしかない旬の食材だってあるわけで、年中ずっと食べられるわけではないメニューもある。まちづくりも一緒で、その地域にある資源を活かして、その人の腕とアイデア次第でいろんなパターンに導くことができるんじゃないかなあ、と。食材にも旬があるように、地域にもその時じゃないと意味がない、良いタイミングというものがきっとあるのです。料理があまり得意ではない私だから、まちづくりでも結構苦戦しているのですがね(笑)。



木々子でミニしめ縄作りワークショップ

でもそんな中で、今のこのケーブルテレビの仕事は私にとって、とても大きな意味を持っています。なぜ

ならば、坂本の住民でさえも足を運んだことのない秘境に仕事として行くことができたり、かなり辺鄙なところにある集落の、もう知っている人がほとんどいないような昔話やお祭りの由来を聞けたり、ほとんど外に出ることがないけど、ものすごく珍しいことや面白いことをしている素晴らしい人材に出会えたりするからです。まだ解禁前の町の情報が一番にうちの職場に入ってきたりするということも多々あります。坂本で何か新しいことを始める人や団体に、誰よりも先に会ってお話を聞くことだってできます。訃報をいち早く知って悲しくなることもあります。でもそれも知っておくべき重要な情報のひとつだと思っています。そして何よりも、取材をすること、

表面的なことだけではなくて、とても深いところまで掘り下げた、その人や地域の本当の想いや気持ちを知ることができません。

あるとき、私は気づきました。たったの2〜3年でこんなにもたくさんの人材と、地域の宝ともいえる資源と出会うことができたけど、もし、この仕事をしていなかったら、自力でここまで坂本の人たちとは出会うことはできなかっただろうし、私を知ってもらうこともなかっただろうし、全く違う坂本Uターライフになっていたのではないだろうか。例えば、日本の棚田百選に選ばれている「日光の棚田」でたくさんの人を集めてピクニックをしたり、ジビエパーティーと違ってかずに豆腐を長年製造されている鮎婦

会のみなさんと鹿肉のハンバーガーづくりをしたり、木々子の公民館で母ちゃんたちと正月前のしめ縄作りをファミリーに体験してもらったり、仕事以外でもユニークなイベントを企画してきましたが、それも全てケーブルテレビで仕事をしていたお陰だったのです。仕事を通じて、坂本をよくしていきたいという想いを持ったみなさんと出会うことができたら、私も心を動かされて、一緒に何かできないかなあと常に考えさせられる生活を送ることができています。

まだまだ模索中ではありますが、まさしく、これが私のケーブルテレビで働くという「想定外」がもたらした、とつても幸せな「想定外」だったのです。3年前に帰ってきた時は、

あまりにもいろんな地域の成功例や先進地の事例ばかり見てきたせいで、きつと坂本でも簡単にできるだろう、とにかくやってみるしかない！という根拠のない自信がありました。が、地域を変えることってそんなに簡単なことではありませんでした。

仕事がないことを分かった上で帰ってきて、まず雇用をつくらねばと意気込んでいましたが、「雇用をつくる」だなんて、軽々しく口にすることではありませんでした。当時の自分の若さと無知無力さを恥ずかしく思います。その地域に住んでみないと分からないことだった。くさんあります。そこに住む住民にしか感じることでできないこと、事情や背景があります。地域プロデューサーや地域コンサルタントを批判す

るわけではないのですが、やっぱり、そこに住んでいる人が、その地域をどうしていきたいのか、そして自分の地域には何がある、何が強みで、それをどう魅せていくべきなのか。そこまで真剣に考えて初めて「まち

づくり」や「地域づくり」と呼べる何かが始まるのだと、Uターン4年目にして解ることができました。偶然働くことになったけれども、想定外だったけれども、この仕事のお陰で地域を再生するために必ず

通らないといけなかった道を、予定よりも早い時間で通過できたような気がします。もちろん、まだまだ長いトンネルの中で、出口がどこなのかは分かりませんが、これから明るいんな「想定外」がきつと明るい結果をもたらしてくれると信じています。

私の坂本想定外ライフはこれからも続くことでしょう。どうか、坂本にたくさんさんの想定外の出来事が起きますように。かなり個人的な話になりましたが、ここまでお付き合いくださいましたみなさま、ありがとうございました。

【さかもと・ももこ／八代市坂本町】



ジビエパーティー in さかもと

昭和40年  
7月3日の

# 球磨川大水害の記録

(坂本②)

自然観察指導員熊本県連絡会会長 つる詳子



上空から見た坂本工場

先月号では、十條製紙株式会社坂本工場の工場外の7月3日の様子を記録した写真を紹介させていただきましたが、今回は、その時の工場内の様子を撮った写真を紹介したいと思います。

王子製紙(株)坂本工場から、十條製紙(株)坂本工場代わつたのは、昭和24年8月

1日のことですが、その1年後の昭和25年9月13日にアジア台風に遭遇し、油谷川に架かる橋が流出し、球磨川沿いに走っていたトロッコのレールが土砂で埋まるなどの被害は出たようです。工場の方も浸水はあったものの被害はそうたいしたことがなかったと聞いています。実際、坂本村史には「正門前・西門前の橋流出、工場内浸水。15日より復旧作業に着手・同月18日午後よりようやく平常通りの操業に入った」とあり、復旧作業から3日で操業開始に入ったことが分かります。

一方、昭和40年の大水害時は、坂本村史にも「工場創立以来の大水害を受ける。工場構内各室二階は、殆ど浸水し、工場前の路面において水位は一・五mに達し、冠水したモーター二七九台、ポンプ・ファン計二一台、水濡れ製品二八三七、社宅四戸、坂本会館・生協など

が浸水し、従業員の家屋も床上浸水四二戸、床下浸水九戸などの多大の被害があった」と報告されていることから相当な被害が出たことが分かります。

坂本会館というのは、球磨川と油谷川の合流点近く、

肥薩線のすぐ東側にありました(写真①)。現在、猪鹿の処理場になっている付近です。坂本会館の広い日本間は「清和荘」と呼ばれ、集会や文化会などの諸行事に活用されていた場所で、映画の上映会なども行われて

いたようです。写真



写真①-1 体育館(坂本会館)洪水時 午前9時



写真①-2 上と同じ場所の平常時

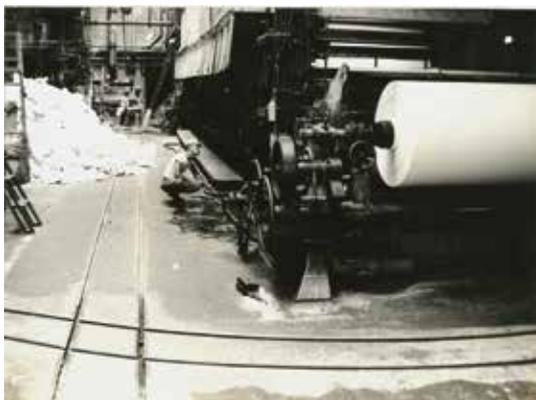
①-1を見ると、体育館の1階部分は完全に浸かっています。驚くのは、肥薩線ギリギリのところまで水が来ていることです。しかし、写真①-2をよく見ると、1階部分の冠水ではなく、道路より低いところにあった体育館の1階と2階部分が冠水するほどの大水であったことが分



写真③ 事務所 午前8時頃



写真④-1 マシン1



写真④-2 上と同じの平常時

普段の写真④①②、⑤①②をみると、床にレールが敷いてありますが、坂本駅から工場まで引いていたエンドレストロツコのレールが工場内にも引いてあったのでしよう。しかし、昭和27年には、坂本駅から工場までの専用側線が完成し、昭和28年にはエンドレスは撤廃されてい

ますので、もしかしたら工

場内のこのレールも使われてなかったのかもしれない。ともかくも、7月3日の水害では、この時間帯で作業している人の膝上まで水があり、抄造され巻き取られた紙にシワがよつていることからみても、かなりの高さまで冠水したことが分かります。写真⑥は、仕上げ室で、出来上がった紙が、裁断されて、最後の仕上げをする部屋です。写真⑥①①に最



写真②-1 坂本会館清和荘内部 午後2時ごろ



写真②-2 同 清和荘内部 午後2時ごろ

ります。当時の水害のことを地元の方に聞くと、「この時は水位が急激に上がり、何も持たずに肥薩線に逃げるのが精いっぱいだった」との話をよく聞きましたが、肥薩線を越えなくて本当に良かったと思います。

清和荘の昭和40年7月3日水害時の写真が写真②①と写真②②です。写真は2枚とも午後2時頃の写

真で、最高水位がペンで記してありますが、普通の家なら1階部分はほぼ浸水であったことは間違いないでしょう。

坂本工場は、この坂本会館より油谷川を少し遡ったところにありますので、最高水位は坂本会館ほどではなかったでしょうけど、午後8時ごろに撮影した写真③③

⑥を見る限り、相当な高さまで水が来たことが分かります。

写真③は、正門から入ると正面にあった事務所です。昭和30年にそれまでの古い木造の事務所が建て替えられ、1階は事務所で2階は会議室になっていました。

写真④と写真⑤はそれぞれマシンと呼ばれる抄紙機しょうしきで、このころは新聞紙やグラビア用紙を作っていたものと思われます。

高水位が示してありますが、相当な高さまで水が来ています。水は引いていますが、どこから手を付けていいのか、腕を組んで見ている職員の様子からも、その大変さが伝わってきます。写真⑥-2は、同じ仕上げ室のまだ早い時間ですが、後片づけが始まっています。



写真⑥-1 マシン2

この写真で驚くのは、床の上に堆積した泥です。単純な泥というより、ねっとりとした感じの泥が床に張り付くようになって堆積しています。住民が「今までの洪水ではさらさらした砂が少し堆積するぐらいだったけど、この時は違った。冷えるとコンクリのように固まった」と



写真⑥-2 上と同じ場所の平常時

いうのもうなずける泥の様子子がモノクロ写真からも分かります。

昭和40年は、九州三大工場（小倉、坂本、八代）統合の話が持ち上がり、その撤回を求めて、労働組合が激しくストライキを行っていた時期でもあり、この水害の復旧作業は大変な中行われたのだらうと察することが出来ます。この年に統合が決定し、翌年西日本製

紙が誕生することになります。

今回の水害写真の紹介に当たって、十條製紙に関する話を聞いたり、資料を読んだりしましたが、十條製紙が坂本の人にとって本当に大きな存在であったことを実感しました。今まで坂本における球磨川の存在に関することばかりに興味をもって調べてきましたが、40年の水害とは関係なく、十條製紙と坂本のつながりについても調べてみたいと思います。しかし、これについてはすでに詳しい方がおられる



⑥-1 洪水時の仕上げ室 午前 11 時頃



⑥-2 洪水時の仕上げ室 午前 7 時 30 分頃

と思いますので、この「くまがわ春秋」でも機会をみて紹介してほしいものです。

## 荒瀬ダム撤去

# 八代高校ボート部の時代

橋本徳一郎

2012年に開始された荒瀬ダム撤去工事が最終局面となつている。工事当初の堆砂量には正直驚いた。今では国道側の河原にその量が見て取れるが、よほど意識してみないとそうとは気づかないだろう。ダム本体の撤去が終了し、残すは発電関連施設のみとなつている。工程表通りならば全行程終了は2018年初旬となつている。撤去されてしまえばダムがあつたころの環境、景色は記憶の中にか残らない。しっかりと記録を残していく必要があると考え、約10年前の記憶を基に記録として残してみたい。

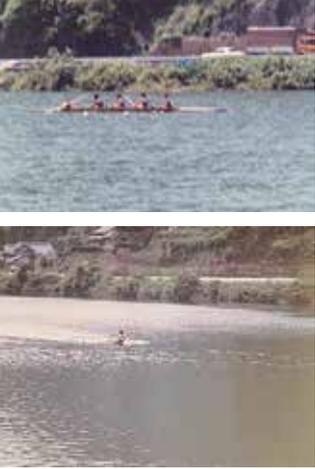
私の球磨川水系との関わりは幼い頃に遡る。母親の実家が球磨郡の旧深田村にあつたからだ。国道219号線車で、あるいは肥薩線・湯前線を列車で行き来していた。

八代から車で約2時間、列車でも同じくらいだったような気がする。特に車で動くときはダムそのものの存在感と、その上流と下流で景色が大きく変わる事にある種の感動を感じていた（その後、大きな違和感に変わった）。

八代高校に入学して、最初は父が指導する陸上部に入部したが、あまり参加しなかつたためか父とボート部顧問の先生との話し合いにより1年の冬場からボート部に転向した。結果的に大きな記録を残すことはできなかったが、高校で何をしたかと問われたら「ボートをした」と答えられる程はまつていた。

話を1年の冬に戻そう。オンシーズンであれば球磨川の萩原橋付近で練習するのだが、オフシーズンは陸上で筋トレに入って寝る、という生活だったため温泉という感覚はまるでなかったが、今思うと泉質は非常に良かったような気がする。食事も満足のいく味と量だったと思う。2年の春休みは残念ながら通い合宿となり宿泊はこれ1度きりであつた。

レ中心。しかしボートの試合は熊本県では大きな大会は2つ（八代独自の試合を入れれば3つ）しかないということ、春の大会にすぐ出られるように冬場のプールにシングルスカル（一人乗り両手漕ぎ艇）を浮かべ、漕ぐ練習をすることとなった。身長が1.5倍近いオールを使い漕ぐ感覚をつかむためだったと後から気づく。



1年（2年に上がる前）の春休みに当時、高校総体の

ボート会場である荒瀬ダム湖で行われた合宿に参加した。宿は鶴之湯旅館という木造三階建ての古い旅館。合宿という集団生活も初めてであつたが、木造三階建てで寝泊まりするのも初めてであつた。合宿時は丸一日ボートを漕ぎ、食事して風呂

艇からの景色は日常生活で見るとは大きく違う。水面から1mない位に目の高さがあり、川面から兩岸を見ることになる。プールに入ってプールサイドを感じる感じと言えば理解しやすいだろうか。それが川の中から兩岸を見る形になり、川の大きさや堤防の高さなどを実感で知る。当然、上に遮るものはなく、脚の裏側以外はこんがり日焼けする。シーズン中は最終的に腕の毛が脱色して金髪のようになつていた。

中間地点に国道が球磨川を渡る橋（鎌瀬橋）がある。そのすぐ下流に保育園がある。合宿中は保育園風景を横目に見ながら漕ぎ、休憩しながら景色を楽しんだ。今では水面が下がり、堤防がかさ上げされているため園からは川が見えなくなつている。せつかく自然に囲まれているのに直

私のアルバムより

私

接その自然を見ることができないのは本当に残念に思う。

ダム湖の水面は当然ながら高い。今だから高いといえるが当時はそれが当たり前だった。県道（肥薩線葉木駅側）から2〜5mほど下に水面があつた。荒天時には道路が冠水することは容易に予想できる。実際、大学時代にツーリングに来て冠水している状態を見たこともある（今思えば結構危険なところに来ていた）。瀬戸石ダムの先の国道が崩落して通行止めになった時だった。

ダム湖の水は普段練習していた萩原橋付近とは違い、深い緑色をしていた。合宿中は飲料用の水と食料を積み込んだ状態で半日漕いでいたが、どうしてもどの渴きがこらえられない時は湿らせる程度に川の水を口に含んでいた気がする。

荒瀬ダムには、高校を卒業し数年は高校総体の応援に訪れたが、知った後輩がいなくなるとしばらく行くこともなくなった。ボートハウスが完成した後、2度ほど子どもたちを連れてカヤックに乗ったことがある。面白いアトラクションであったが、妻は水質に対し非常に警戒的だった

ことを覚えている。

その後、荒瀬ダム撤去が決まるまで意識して訪れたことはなかった。撤去が決まった時に、ボートの高校総体会場はどうなるのだろう、などと仕方ない心配をした。工事が始まり、ダム湖の水が抜けた後に見た堆砂の量には本当に驚いた。川底からゲートまでの高さにしつかりたまっていた。これほどの淀みであつたら水質の悪化も納得できる。

私は今でもオートバイでのツーリングを趣味としている。今では国道219号線の道の駅坂本に立ち寄る様にしているが、川の流れや水質の変化に感動している。かつてダム湖であつた葉木駅付近の景色の変化には本当に驚いた。水面の低きに、何よりもその流れの清らかさに。そのことでボートハウスが閉鎖になっていることは残念であつた。

しかし、荒瀬ダムが無くなったことでこれだけ清流が取り戻せるのであれば、その上流にある瀬戸石ダムがなくなつたら人吉から下流の球磨川水系の自然復活は容易に想像できる。

萩原橋付近の下流域でも大きな変化が見て取れる。練

習でボートを漕いでいた付近に中洲が形成されている。過去に河川改修時に埋め立てていたことは知っていたがそんなに大きくはなかった。上流からの砂が運ばれてきているのであろう。

近頃、閉鎖されたと言った鶴之湯旅館が再開したと聞

いた。ボートハウスも利用法を模索中とのこと。この旅館よく熊本地震に耐えたと感心するが、これからの観光資源になる事を期待したい。

春の葉木駅付近は桜が非常にきれいに咲く。その中をSが走る。ダム湖時代はその水面に映る写真が多く出回っていた。水面が大きく下がった後にどう景観をつくりあげるか？ これからの環境整備に期待したい。

今の両岸はダム湖の名残と上流の瀬戸石ダムの放流に耐える強度を確保するため、コンクリートで固められた状態で無機質なまま。しかし、その瀬戸石ダムも危険な状態であることが国会でも指摘され、下流住民からも撤去の要望が出ている。今後、瀬戸石ダムが荒瀬ダムと同じように撤去され、球磨川水系が豊かな自然を取り戻すことで貴重な観光資源になる事を期待する。

【はしもと・とくいちろう／八代市】



昨年11月に営業を再開した鶴之湯旅館



撤去作業中の荒瀬ダム（2016年1月）

# 古屋敷のおじちゃん

上村雄一



「古屋敷」集落（八代市坂本町）

八代市坂本町の物語である。

鮎歸川（油谷川）の右岸に「古屋敷」という集落がある。「古屋敷」は数多くある名で、その昔、その地に大きな屋敷があったことに由来する 때가多い。鮎歸川の「古屋敷」もそうである。その古屋敷のおじちゃんと坂本駅で話した。

古屋敷から坂本駅までは4キロ近くある。4キロを長いと感じるかは人によつてちがうだろう。とにかく、おじちゃんは坂本駅まで歩いた。八代の歯医者に通院するためである。

6年前に路線バスは廃止されたけれども、その代わりに「乗合タクシー」が運行されているので、それを利用すれば坂本駅まで歩かなくもよい。しかし、おじちゃんは坂本駅まで歩く。帰りもそうだ。料金が高額だから乗合タクシーを利用しないのはない。歩ける距離だと考えるから歩くのである。

おじちゃんは81歳である。年齢を考えると4キロは長いかもしれない。料金を知らなかったので乗合タクシーを利用してみた。片道150円、往復で300円であった。歩いてみたら45分を要した。おじちゃんがどれだけの時間で歩くのかは知らない。

おじちゃんは、八代の歯医者に通院するために坂本駅まで歩いている。坂本駅から八代方面で汽車に乗



車し、八代駅で下車して、同駅から2キロほど離れた歯医者さんに通院していると言った。少し前までは日奈久の歯医者さんまで歩いて通院していたが、八代駅から日奈久までは遠いので、「近場の歯医者さん」に通院することにしたと言った。



路線バスの代わりに運行されている「乗合タクシー」

若い頃、おじちゃんは製紙工場のトンネルや線路を利用して坂本駅まで通つたらしい。製紙工場が閉鎖になつて近道がなくなつたと笑つた。そうだ。古屋敷と坂本駅の間には、大きな製紙工場があつて、坂本駅と工場は線路でつながつていて、途中にト

ンネルがあつた。それを利用すれば1キロ近く距離は短くなる。おじちゃんは、坂本駅が寂れたとくりかえした。おじちゃんが子供のころ、10月祭り（妙見祭り）のときなど駅構内はすし詰めになり、列車にはぶらさがつて乗るしかなかったが、今はほとんど乗客がいなくて、さびしいと言った。

おじちゃんは山の仕事をしていた。材木を伐採し製紙工場に運んでいた。おじちゃんのオトウサンも山の仕事をしていた。最近、工場（日本製紙八代工場）ではチップを燃やして発電しているらしいが、じつにもつたいない、チップは紙の原料であつて燃やすものではないと力を込めて言った。おじちゃんは、鮎歸小学校を卒業し、すぐに山の仕事についた。「ボ

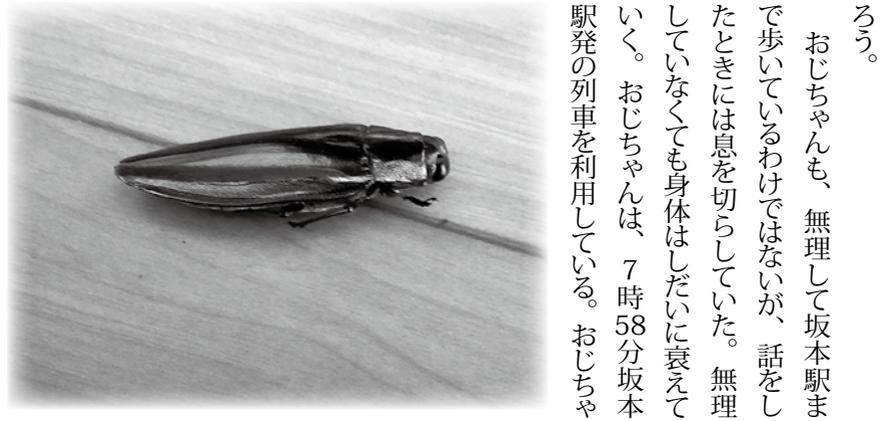
# 柳人があじわう漱石俳句

— 19 —

いわさき楊子



ンクラだけん、若つかころは、喧嘩ばかりしとった。頭の悪かもんは、気が短こうとあからんどばい。景気はよかつたばつてん、遊びにカネば使つて、預金はせんだった」と笑つた。「山には、なんでもある、クインモン（食い物）には困らん。水も旨か」とも言った。事故を起こして自動車の免許は失い、そのあとは、免許をとつてない。



おじちゃんも、無理して坂本駅まで歩いているわけではないが、話をしたときには息を切らしていた。無理してなくても身体はしだいに衰えていく。おじちゃんは、7時58分坂本駅発の列車を利用している。おじちゃん

## 白菊と黄菊と咲いて日本かな

(漱石43歳)

日本の秋を菊で形容するこの句の感覚は百年たつた今でも納得できる。その句いも身を引き締める。十六八重表菊が皇室の紋であるからであろうか。晩年、南画に親しんだ漱石が、菊の画にこの句をかいたものが多く残っている。

洋室が多くなつた昨今、菊はリビングに飾る花ではなくなったが、葬儀には欠かせない花だ。

## 柩には菊抛げ入れよ有らん程

(漱石43歳)

漱石の恋心について語られるとき、必ずあげられる友人の妻・大塚楠緒子の訃を知り手向けた句。有らん程という措辞に深い悲しみが表れている。

漱石（金之助）は、江戸時代から高田馬場一帯を治めている名主の五男末子として生まれた。夏目

## 菊一本画いて君の佳節哉

(漱石46歳)

家の家紋が「井桁に菊」であつたことから現在の新宿区にある町名を喜久井町と名付けたのは父・直克である。菊にはことのほかの思いがあろう。漱石の全句約2500句の中に95句もの菊の文字が入つた句がみいだされる。

「佳節」はめでたい日。さらりと描いて誰かの祝いに贈つたのだろう。

漱石は自ら画を描くだけではなく、出版する本の装丁にも凝つて、気に入つた画家と入念に打ち合わせをしていたという。晩年は俳句や画を胃の病を癒す楽しみとしてたしなんでいた。

黄菊満開 廢屋の生家

謹呈の本に値段が書いてある

【いわさき楊子／川柳誌「裸木」編集人、熊本市】

# 石水寺門前の「眼鏡橋」

人吉市下原田町西門



「眼鏡橋」人吉市指定文化財（昭和50年9月15日）

石水寺は人吉市土手町の永国寺を創建した実底和尚が応永24年（1417）に隠居寺として開いた曹洞宗の寺で、「海棠」の木はよく知られ、「花の寺」とも呼ばれている。海棠をはじめ「桜」「菜の花」「もくれん」など咲き競う様は爛漫そのもの。

寺の山門は石をくり抜いたユニークなもので、その門前を馬氷川が流れ石造りのアーチ橋が架かる。

架橋は嘉永7年（1854）、郡市の石橋では最も古いもので、石工は「太次郎」と伝えられ、美しい姿



眼鏡橋から見た本堂と山門

を保っている。長さ21・4m、幅2・7m、高さ7・1m、径間12mもので、橋の西側に増水時の水貫きがあるのが

特徴。17代住職の元亮和尚のとき、延べ数千人の奉仕によって架けられ、橋の東側には眼鏡橋建設碑が建てられており、地域の寺院や地元の有志

役人など橋の建設に関わった人々の名が刻まれている。

これらの橋・山門・

石垣は、いずれも同質の凝灰岩で造られているが、裏山に「石切場」があり、そこで調達されたものと思われる。

四季の風情と相まって門前らしさにあふれた橋である。



海棠が咲くころの眼鏡橋（今年）

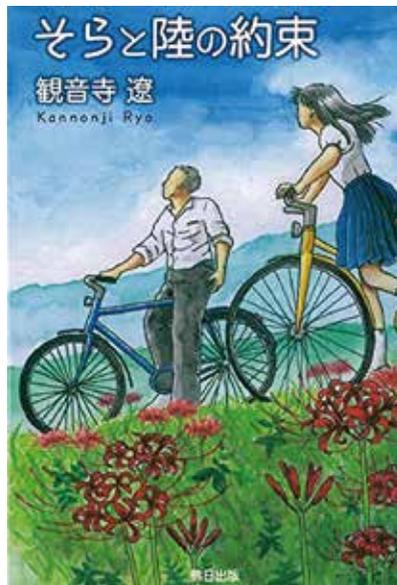


眼鏡橋の下を流れる馬氷川

# 観音寺遼『そらと陸の約束』(熊日出版 2017年9月8日)

## 時間をかけ、時を駆け、秋を待つ 久馬 凌

今秋は、三十三観音巡りはしないつもりでいた。とにもかくにも忙しかった。しかし、本書を一読して予定を変更した。忙しきは理由にはならない。だれでも、いつも、ならんかのことで忙しい。貧乏人に暇はない。



『そらと陸の約束』 観音寺遼 著  
単行本 ¥1,080 熊日出版

今秋にかぎらず、「いつかは廻れる」という意識がいつもどこかにある。三十三観音巡礼にかぎらず、すべてについてそうだ。観音巡礼の魅力を知っていても、「いつか廻れる」という意識がどうしても残る。それが巡礼の機会を失わせている。本書の意図は必ずしもそのことを伝える点にあるわけではないが、そのことに気づかせる力がある。一読して、すぐに本書をたずさえ秋時観音(球磨郡あさぎり町)に向かった。

秋時観音は三十三観音巡りの第12番札所である。なぜ、第1番札所でなく、第12番札所か。それは同札所が本書の物語の出発点であったことによる。多良木中学校女子生徒の久米そらと人吉一中男子生徒の犬童陸の二人が本書の主人公で、二人はあさぎり町の秋時観音(正確には、

その近くの山頭火の句碑前)で出会い、そこから物語は始まる。そして、二人は高校三年までの6年の時間をかけて三十三観音すべてを巡礼する約束をする。「そらと陸の約束」である。そのとき二人は中学一年。その約束は中学生時代、進学先の人吉高校時代でも着実に実行されていく。

ところが高校3年の秋、約束は中断する。そらは重篤の疾病に罹患し治療のため家族とともにアメリカに引越したのであった。陸はいつしか、彼女を愛し結婚を夢みるまでにいたっていた。そら一家がアメリカに飛び立つたあと、彼はひどい喪失感にさいなまれる。そらは死んでしまったのではないかとさえ思ってしまう。なにもできなくなり観音巡りもしなくなった。それから42年後、二人は劇的な再会を果たす。二人は還暦をむかえていた。13才から18才までの二人の記憶が時を超えて60歳の二人の会話と重なっていく。

以上が本書の粗筋である。ただし、再会は「2058年」に設定されている。現在ではなく、近未来の再会を筆者は描いているのだ。現在にひきなおせば、陸もそらも失意の

どん底にいたことになる。筆者は、いま悩みのなかにいる若者たちに向かって、未来は失われていないことを伝えたかったであろう。さらに、今後も廢れることなく、観音巡礼は存続しているという筆者の希望もそこに含まれている。

秋時観音、多良木中学校、人吉中、人吉高校などにみられるように、物語の世界はすべて現実的である。ひとつひとつの例をあげないが、登場人物と時代設定を除けば、ほとんどが現在の具体的姿が本書では描かれていて、三十三観音巡礼の魅力と人吉球磨の美しさへの讃歌が本



そらと陸が最初にならった場所

書の基調である。今秋の巡礼は終わったが、半年は短い。そらと陸の約束にしたがって観音巡りをすれば、早ければ6年後にはすべての観音様にお会いできる。二人は高田素次『相良観音めぐり』（昭和52年刊）をテキストにして巡礼した。私は、本書を手に、三十三観音巡りをしよう。巡ったあとには、せつかくだから、手元にある岐部明廣『相良三十三観音巡礼』（人吉中央出版社）を読み、巡礼したところを復習しよう。必ず勉強になる。

「観音寺遼」。本書の筆者の名前。それにしても不思議な名前である。どうみてもペンネームにしかみえない。おそらく観音巡り、海音寺潮五郎、司馬遼太郎の三者を併せた名であろう。これは僕の推測だ。あてにならない。しかし、きつと、そうだ。そうにちがいない。僕の推測は外れるときが多いが、今回は自信がある。

「郷土の文化の保存が町づくりの基本」という一文がある。このことを最後に付記する。

【きゅうま・すぐる／八代市】

## くまがわ狂句

村上鬼拳

盛り沢山 「二冊の本」ちゅうなかれ  
びつくり 石蔵がこう変わるかい  
お得意さん ママに耳打ちしといたか  
なにくそ 今は孫請けしとつても  
良か匂い 風船吹いて貰おうか  
森の都 両親が出たがらん筈  
万に二つ 改札も別々出る  
新陣容 日本再生してくれ工  
消えた 噂通りイなる二人  
もう一息 高嶺の花でおくもんか

【むらかみ・きけん／人吉市】

## 田中一彦さんを囲む会

9月22日、あさぎり町免田の「彦六」であった。田中さんは『忘れられた人類学者』の著者。田中さんの来球に合わせて有縁の者が集まった（写真上）。参加者は、田中さんのほか、ウイ



リアム・ケリー教授（エール大学）、堀伎美子、松本美恵子、前山光則、鳥飼和信、東慶治郎、遠山幸穂の各氏のほか、編集部2人（松本学、上村雄二）の11名。エンブリー著『須恵村』は、

いまでもアメリカでよく読まれていること、『忘れられた人類学者』が増刷中だということ、近いうちにエンブリー関係の次に著作（占領統治問題）が公刊される見通しであること、『菊と刀』はベネディクトの真意を記述してはいないのではないかと

の疑問、資本主義化が進んでいないので平山地区（旧須恵村）にエンブリーは特に注目したのではないかなど意見が出た。終始、なごやかな雰囲気であった。

### 付記

翌23日、宮原観音を巡礼中の田中さん、ケリー教授に偶然にお会いした（写真下）。

お二人は、宮原観音の前に栖山観音を参拝されたとのこと。岐部明廣氏も栖山観音を巡



河口から上流まで、その駅を訪ねる

# 球磨川の駅・ものがたり

連載その⑱ くま川鉄道・一武駅



熊本産業遺産研究会 松本晋一

線路は肥後西村駅から、球磨川の流れに沿って少し左カーブを描きながら進み、中福良、大王三条の汚水ポンプ場の先で、東の土手と並行して約2kmの直線が続く。この肥後西村・一武の駅間3.4kmは沿線では最も長い区間。進路の北東方向には遠く湯山、水上の山並みを望め、真ん中には県内第二の高峰、市房山（標高1721m）を眺めることが出来る格好の場所でもある。この市房山



市房山遠望（右下はサイクリング道）



肥後西村・一武間の直線（下り、下須第二踏切）

は旧暦3月15日には「お嶽さん参り」と言い、夫婦の契りを結ぶ男女二人が縁結びの神様「市房神社」を参拝したとされるが、恐らく大正後期の湯前線でも、それにも利用されていたのではと想像した。

時折り線路傍を稲刈り後のトラクターが通って行く、当日のそれは大型の米国ジョンデア社製、冷暖房完備のクルマに驚いた次第。

線路途中の大谷川橋梁は昭和48年



米国製大型トラクター

7月に新設され、大型の農業用水路橋梁としては、沿線最長22mの長さのある最も新しい橋梁である。この橋梁手前の久保踏切はクルマからの見通しが利きにくいのか、自動車事故が多いとのこと。

## 一武駅

一武駅は球磨川左岸では2番目の駅。西村駅と同様、大正13年3月30

日に開業、起点から9.2km、西村駅からは3.4kmで、標高123.5mに位置する。現在は1面1線の単式ホームだが、開業当初は島式の2面2線の駅で、相互の行き違いが可能な駅であった。現在も2番線ホーム跡が残り、球磨川河畔に咲く、名花「ツクシイバラ」が植えられている。

が2番線（下り）、右が1番線（上り）、左下写真の右手には旧貨物ホームと上屋が見える（写真下）。現在は自動車整備工場となっている。駅住所は錦町大字一武638-6、昭和46年2月に無人化された。同年5月の国鉄合理化で地元錦町が払い下げを受け、当時は全国でも珍しい町営の駅となり、役場職員（国鉄OB）が乗車券の委託販売もした



大谷川橋梁と久保踏切（肥後西村寄り）



木上方面ホーム



旧2番ホームのツクシイバラ（福井弘氏）



旧2番ホームへの渡り線



と、信号で国道219号へぶつかり、右折すれば錦町役場や図書館、その西には「道の駅・錦」が在る。錦町の名称は、西村の二、一武村はシ、木上村のキの三村の頭文字を採った

ものとか。さらに信号の先は旧一武村の中心地、下原地区が在る。昭和30年の三村合併以降、小学校、医院、IT工場など、工場誘致された20社ほどがその地域に集まった。地元特産の一武梨（豊水他）は味も良く、梨の名所であり以前、本別府地区（渋谷家）には大きな堅い長十郎梨の実が落ち



町営駅の開所式（昭和46年5月1日）

が年間120万円の赤字であったという。左の写真は町営駅の開所式。当時は旅客列車上下18本、貨物列車が上下2本走っていた。大正15年9月の「新鉄道旅行案内」の説明に「駅名は二武（いちたけとるじ間違ひ）。位置は人吉から5・7哩



旧上下線と貨物線上屋右手（福井弘氏、上下）

9・2km。球磨郡一武村加幸にある。駅勢は駅1日平均乗客256人、降客215人。見るべきところには丸目蔵人墓・南へ2700m、眞影流の達人として有名な剣客、その晩年は此地に住して寛永6年5月7日92歳の高齢で没した」と記してある。



旧一武駅（上り方向）

て、お年寄りを襲う「ババウッチャギ」の伝説の木があったが、先年の台風19号で折れてしまったとのこと。一武駅から球磨川辺りまでは500mほど。西寄りの錦大橋を渡れば、対岸は十日市、由留木、山下地区へと繋がる。由留木は旧高原



現在の上りホーム

海軍航空隊滑走路の西端にあり、近くの指令用防空壕跡付近には記念館を計画中。また山下地区には戦前からの富豪、平山家があった。昭和初期、その平山長一氏は人吉球磨では初期の自家用車（リンカーンフェイトン1924年）を所有。先代の平

現在の駅舎は、くま川鉄道の駅となつて6年後の平成7年12月4日完成のもの。旧駅舎の2倍の底のあるプラットホーム型の駅舎で、剣豪丸目蔵人にちなみ「なまこ壁」スタイルが特徴。トイレは木上寄りに洋式水洗が設置されている。正面駅名の上に「丸目蔵人の里」とサインがあり、ホームではあさぎり町の南桜高校グラウンドへ陸上の練習に行く中学生が次の下りを待っていた。ホームの名所案内には土屋観音（第31番）が駅傍に、剣聖・丸目蔵人佐藤原長恵の墓地が切原野と記してある。またその近くには桑原家住宅（国指定重要文化財）、水無川上流にはラムネ水が飲める大平溪谷が在る。駅前には県道262号線が通り、一武駅前から南へ丘陵を1km上がる





内布地藏堂裏にあるこの五輪の塔は、室町時代の武士のお墓と思われる

に電話をして、「内布地藏堂に行ってお地藏さんの腹を見て来て下さい」とお願いした。そんなことを頼む方も、頼まれる方も、もう変人かもしれない。快く田山さんは日曜のお昼から、球磨村は渡の内布地藏堂へ行ってくれたのだった。

「内布地藏堂のお地藏さんには黄檗様式はありません」との報告があった。と、いうことは、出町のお地藏さんがおっしゃる通り古いお地藏さんかもしれないこと

がわかった。内布地藏堂の後ろには昔、お寺があったようで、確かに室町時代の武士のお墓があった。しかも、ここに残る鰐口も室町ときく。ひよつとすると、室町のお地藏さんかもしれない。いかがでしょうか。しっかりと顔もみて下さいませ。イスにお座りというの、位の高いお地藏さんかもしれないですね。どうぞ、手に数珠を持ち、石水寺の前を通って内布地藏堂へ行ってみて下さいませ。お賽銭もお忘れなようにお願いします。

【みやはら・のぶあき／FBお地藏さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】



近世に彩色が施されたお地藏さん

「黄檗様式」とは、江戸の初期に隠元というお坊様が中国から帰ってきて「黄檗宗」を開いた。その隠元様は、「い

そんなこんな、もやもやがあつて津奈木町は海のイカダの上で釣りをしているも気になってしかたがない。そこで私と同じく「お地藏さんファン」である錦町の田山勝志さん

ておられますね」と私。「珍しからしかですばい」と内布さんがおっしゃった。左手には色の違う宝珠を持たれ、右手には「錫杖」を持たれている。お堂の後ろには五輪塔があり「永正四年」（1507年）と刻まれた跡が気になって帰宅した。そこからである。出町の地藏さん（上青井町ホテルサン人吉前）の

前に立ち、手を合わせていると「内布の地藏さんはワシより古い地藏さんばい」と出町の地藏さんがおっしゃる声が入ったのだ。そんなことはない、そんな古いはずはない、江戸の後期のお地藏さんばいと、そう思ってみても、出町の地藏さんがそれでも古いとおっしゃる。「そうか！黄檗様式で確かめよう！」。

んげん豆」でも有名であるが、他に「仏像の流行を作った」お方でもあるのだ。腰巻きのヒモを腹の前で蝶々結びをする「様式」で、1660年以降の日本中の仏像には「黄檗様式」がある。人吉球磨の石仏にも腹の部分を見るとハートマークのような簡単な黄檗様式をみることが出来るのだ。1657年に建立された出町の地藏さんの腹には黄檗様式がないのは、日本中に黄檗様式が流行った以前に制作建立された証拠でもあるのだ。

# 136年前、人吉球磨で昆虫採集した英国人

## ジョージ・ルイスの足跡を検証する ①

環境省希少野生動物植物種保存推進員 宮川 続

当時、湯山中学校教師であった田原鳴雄氏は、ネオカシラ・コンフラゴザ（コブハナダカカメムシ）が1881年に世界で初めて市房山で採集されたが、その後全く採集されていないことを生徒たちに教えている。その翌年の1965年に椎葉房夫氏（当時中学校2年生）が、85年ぶりに原産地で採集し話題となった。この経緯については「水上村誌」（2002年発行）に詳しく記述してある。



George Lewis (1839 ~ 1926)

このカメムシを最初に採集し報告したのがイギリス人ジョージ・ルイスである。たまたまインターネットでジョージ・

ルイスを検索すると「北海道大学総合博物館ボランティアニュース」の中に、ルイスに関する記事を見つけた。この記事を手がかりに、「月刊虫」・「新昆虫」を取り寄せ、ジョージ・ルイスの足跡を知ることができ、この検証につながった。

ジョージ・ルイスは、江戸末期と明治初期にお茶の商人として二度来日し、その傍ら日本の多くの昆虫を採集し記載した。その足跡を詳細に紹介したのが1971年発行の「月刊虫」という昆虫専門誌で、その著者の草間慶一氏はカミキリムシの研究者であり、その論文はジョージ・ルイスが採集し記載したカミキリムシについてまとめたものである。草間氏が参考文献として引用した1953年

### 資料① ルイスの熊本における行程

到着日	(1881年)	最終日
4月	22日 汽船にて Kumamoto, in Higo (熊本市・肥後へ)	
	23日 熊本 「Goka Temple (五箇神社・熊本市) 42」	4月26日
	27日 Yatsushiro (八代)	〃 28日
	29日 Konose, on the Kumagawa (神瀬・球磨川流域) 800	
	30日 Ichiuchi or Ikenoshimo (池の下) 900, Higashimata (東また?)	
		5月2日
5月	3日 Hitoyoshi (人吉) 1200 「Rakuwayama (らくわやま) 2200、Oguma (小隈) 2000」	〃 8日
	9日 Kuroheiji (黒肥地・多良木町) 1300	
	10日 Yuyama (湯山) 3000 「Ichibosayama (市房山) 5000」	14日
	15日 人吉 「おぐま」	〃 17日
	18日 神瀬	
	19日 八代	
		(湯山) 7日間
	20日 熊本	〃 21日
	22日 長崎	

発行の「新昆虫」は、当時九州大学教授江崎悌三氏の「外国人による九州の昆虫採集」と題した論文で、詳しく行程も記してある。(資料①、草間氏より)

草間氏および江崎氏が紹介したジョージ・ルイスの日本における旅の、熊本に関する部分を抜粋する。文はもともと英語表記でありこの論文を書いた草間慶一氏がわかる範囲で日本語訳をつけている。文中の数字は標高で、フィートで表してある。

上が熊本県に関する部分の抜粋である。( ) 内の日本語表記は草間氏がつけたもので氏自身からなかったものは？をつけたり、ひらがなで表記している。また、「湯山」(7日間)とあるのは日本人の採集人を派遣して採集させたことを意味しており、Gokaや Oyayama ともに市房周辺を詳しく調査したのかがわかる。

よくわからなかった地名についても「読者の中でご存知の方がいられたらご教示いただきたい」と書いているがこれまでその検証をしたものを知らない。草間氏の問いかけから46年たった今、私なりに熊本県に関する部分の検証を試みた。

1881年(明治14年)4月22日、汽船で熊本に着いたルイスは、熊本に5日間滞在している。この間これから出発する山深い人吉球磨の旅の準備に費やしたのであろう。また、熊本の五箇神社に参拝しているがこの五箇神社がどこなのかわからなかった。人吉球磨への旅とは別にGokaやOyayamaなどにも採集人を派遣しているので、五家荘に關わる神社なのかもしれない。上記「地名については特定できずなう。



ルイスの熊本における行程図

4月27日に熊本を出発し、28日は八代に滞在している。列車もない時代のこと、人吉までの馬や荷車の手配、持つて行く荷物の整理や人足の手配など様々な準備に当たったものと思われる。

4月29日いよいよ人吉に向けて八代を旅立った。翌30日にIchichi(一勝地)に到着していることからKonose(神瀬)に一泊していることがわかる。

江戸時代神瀬には相良家の「御飯屋」があった。当時西南戦争から4年ほどしか経過しておらず、球磨川下りなどの観光もない時代で、明治政府の紹介などで公的な所や各地域の有力者の家に宿泊したものと考えると、神瀬・一勝地などでは相良家の御飯屋を利用したと考えるのが妥当と思う。帰路も人吉を5月18日に出発して、神瀬に一泊し翌19日に八代に到着している。

4月30日にIchichi(一勝地)に到着し5月2日まで滞在している。この間Ikenoshimo, Higashimataで採集している。一カ所は一勝地の「池の下」で、現在も集落名は存在している。しかし、「ひがしまた」は現在の地図ではわから

なかった。郷土史家の前田洋氏に後日調べていただいた。前田氏によれば「日本地名大辞典」の43巻熊本県の161ページに「東俣」の記載があり「勝地の黒白の川向かいとが分かった。球磨村役場に尋ねたところ黒白の川向かいに数件あった集落であること、十数年前まで一軒が残っていたが現在、人は住んでいないことなどがわかった。

2017年3月10日、東俣の確認のため黒白を訪ねた。黒白集落でお会いした犬童ミサエさん(写真②)に東俣の



②東俣のことを教えていただいた犬童ミサエさん(右)

こと、宿泊したであろう御飯屋の事などを尋ねた。「東俣」は黒白のすぐ川向かい(写真③)であり、人は住んでいないが一軒の家が残っていることをお聞きした。御飯屋があったことなどを話しながら、一勝寺などに何か資料などが残っていないかなど

勝地中学校となつている。ジョージ・ルイス一行が一勝地の何処に宿泊していたのかわからない手ばかりはこのとき焼失したと思われる。

一勝地駅から10キロほど芋川沿いにさかのぼると黒白・東俣、また中津川沿いに上れば黄檗集落が



③黒白集落上部からの東俣集落跡

あることから時間をかけて採集を楽しんだものであろう。

5月3日、人吉に到着し、8日までの間に、Hiroyoshi Oshima (ひろよしおしま) の Rakuwayama no Oguma (らくわやまのおくま) を訪ねた。

Rakuwayama (らくわやま) は、江崎氏の論文では(於鹿倉山)、草間氏は英文をそのまま読み「らくわやま」として居る。「鹿倉山」も「らくわやま」も存在しない。もちろん地図を見てもわからない。私と前田氏の話聞いていた上戸越町在住の郷土史家黒肥地改太郎氏は「なっかやま」ではなからうかという。漢字では「永葉山」と書き「なっかやま」で、地元の人「なっかやま」と呼ぶそうだった。「なっかやま」が Rakuwayama でも音の流れに無理はない。漢字表記してあると「なっかやま」としか読めない。黒肥地氏の「なっかやまじゃなからうか?」の一言は解明にとって重要な意味を持った言葉だった。Rakuwayama の音に似た音が今も生きていた。

五木村の国道445号に「鈴ヶ谷隧道」と書いてあるトンネルがある。「さすがたにずいどう」と読むのが正しいの

# 漢和字典は面白い

2  
鶴上寛治



〈しゃべる〉だが、ひとほどんなふうにはしゃべる? そう、ペラペラと。葉っぱのように、だ。中味が薄く、軽々しいのが〈おしゃべり〉の特徴。本人はそれを楽しんでいるのだから、時にはそれを嫌がっている人も周囲にしていることを心したいもの。それで傷付いている人もいるのだ。

昔の和綴りの書物は1ページ・2ページではなく、一葉・二葉と数えていた。ぴったりだ。蝶——葉っぱのようにひらひらと舞う虫。鱒——葉っぱみたいに平べったい魚。

蝶——何かを書き付けた平たい紙切れ・その記号(符蝶) までいいが、もう一歩進んで蝶となると《まわしもの・うかがう》となり、間諜(スパイ)・防諜・諜報と何やら重々しく不気味な響きになってくる。液溼は川や海の底に溜まった泥を取り除くことだが、薄く剥ぎ取るような除去作業をするのだろうか。

であろうが、小郷規征氏によれば地元の人はその谷を「すんがたん」と呼び、「すんがたんずいどう」だという。漢字にしてしまえば音は伝わらない好例であろう。

だが、黒肥地氏に「なっかやまはじつじ」と訪ねたが「近くの山だろうが、どの山のことかわからない」という。そこで後日、上永野町在住で林業家の永山芳宏氏に尋ねてみた。永山氏によると「なっかやま」は山の名前ではなく現在の永葉集落の古くからの呼び名という。「なっかやま」と呼ばれる永葉集落は高塚山のすぐ麓の集落で、標高は370m程で、ルイスの2200フィート(670・5m)にはほど遠い。では、その集落の上にもそびえる高塚山ではと考えた。この山は昔から「高塚神社」が祀られ細い山道ではあるが登山道も当時からしっかりとあった。標高も623・9mで2200フィート(670・5m)に、ほぼ符合する。Rakuwayama は、現在の上永野町で永野川沿いの永葉集落にかけての高塚山周辺地域と考えられる。

【みやがわ・つづき／人吉市】



〈どろろ〉。ひじ。水気を多くふくんだ土。②ぬかるみ。③けがす。にごす。④どろ状の物(金泥) ⑤南海に住むという、伝説的な一種の虫。骨がなぐにやぐにやしているという。⑥なすむ。〈「泥」の部分は二人がなじむ〉の意だとか。

拘泥するのは⑥で、泥酔するのは⑤。酔っぱらって泥田に落ち、泥だらけになったことがあるが、これこそ本場の泥酔だった。

泥江さんをドロエさんと読んで甚だ失礼。だが土方さんの方は大体ヒジカタさんと読んでくれるようだ。知名度の大小のせい。ウイ(ヒ)ジノカミ(宇比地邇神)・スイ(ヒ)ジノカミ(須比智邇神) などという「古事記」に出て来る神様は泥から生まれて来る。

「泥があるから花が咲く」(某尼僧の著書名)——もし蒸留水で水耕栽培したら蓮は枯れてしまうのじゃないかな。

ドロボウを泥坊あるいは泥棒と書くが、その語源説はまちまち。ドロは〈取る〉から、とするものが多い。

ドロボウを捕まえる棒が泥棒だとして、ドロボウを捕まえる縄が泥縄だ、なんて説が辞典に書かれる日が来るのも遠くはなさそう。

【くるかみ・かんじ／人吉市】



会場には「くまモン」の姿も



5日は錬成大会。開  
会式にはサプライズ  
でくまモン登場に大  
会会場は大喜び。  
6日は各県の代表  
が震災の体験を発表  
し、手作りの竹でソー  
メン流し。夜は衣装  
を身につけ演芸会。  
7日はいよいよお  
別れの会。これまで  
朝、昼、夜と食事の  
【うえずぎ・よしの／ボランティア  
観光バスガール、あさぎ町上】

や食費、いろんな資金作り  
に苦労があったようだった。  
剣士の絵入りタオルなど  
の物品販売。いろんな企業  
に出向きチラシ広告などの  
依頼。あさぎ町役場の共  
催、教育委員会、議会議員

の皆様のご協力も頂いた。  
道場の保護者のお父さんお  
母さん達も、しよちゆう我  
が家の上杉道場に集まり準  
備をしてもらった。  
こうしてやっと迎えた東  
北3県の剣士達30名と熊本

地震を経験した益城の子ど  
も達、我が翔成館と兄弟道  
場の熊本市内の順道館。人  
吉球磨の剣士達200名程  
が集まった。  
8月4日、空港に迎えるに  
行き熊本の名所を観光し、

準備を手助け協力して頂い  
た婦人会の皆様へ感謝の気  
持ちを伝える謙ちゃん。  
「全て周りの人達のお陰で  
す」と涙ながらに挨拶した  
謙ちゃん。  
実は胃ガンと診断されて  
いた謙ちゃん。  
誰にもいわず私と娘だけ  
が知っていた。夜も眠れない  
日々が続く中これだけはや  
り続けたいと、病に打ち勝  
ち、そして夢をも果たした。  
その涙は最高の涙に見え  
た。だから、声高らかに  
私の主人は「あっぱれ謙ち  
ゃん」である。



## 上杉芳野の「あがつ段」⑰

# あっぱれ謙ちゃん



中学時代の謙ちゃんと私

主人と私は小中学校を共  
にした幼なじみの同級生。  
同級生の中でも元気が良  
くて一番面白いのが男は謙  
ちゃん、女は芳野ちゃんとい  
われる程の二人が、夫婦と  
なったのだからサア大変。  
謙ちゃんがボランティアで  
剣道の指導を始めれば、私

は歌や踊りでボランティア  
活動を。謙ちゃんが東日本  
大震災の支援活動を始めれ  
ば、私は素人芸を生かして  
チャリティーショーを立ち上  
げた。それぞれが自分の趣  
味を生かして活動する事に  
お互いが協力し助け合った。  
私にとつての良きライブ  
でもある。

お金を岩手、宮城、福島県  
の剣道連盟に毎年送り続け  
た。同じ剣を交える者とし  
て何か役に立ちたい、この  
子ども達が大人になった時、  
何かのつなかりで友情を深め  
ていつてくれたらとの願いが  
あった。  
昨年、翔成館道場の創立  
十周年の節目に東北三県の  
子ども達をこちらに招き、  
錬成大会をしようと計画し  
たが、熊本地震のために中  
止していた。  
そして、本年8月4〜7  
日の4日間に1年延びてやっ  
と実行する事が出来た。  
実施するまでの期間に3  
県の役員、選手たちの旅費

# 北片宮・薬師堂をあるく

森山 学



写真① 右が北片宮、左が薬師堂

八代インターチェンジ付近、国道三号線から山手側に、北片宮と薬師堂がある(写真①)。七七七段の階段がある東片自然公園の登り口である。

これまでも神社とお堂が並び立つ境内として、奈良木神社・観音堂、新牟田加藤神社・阿弥陀堂・観音堂を紹介してきたが、今回はその第三弾である。二棟の建物は、山裾の旧街道と用水路に沿う境内に建つ(写真②)。

国道三号線の一本裏を通る街道は、平安時代には筑後から薩摩を結んだ小路であった。この小路の駅家が「片



写真② 街道から橋向こうに見る

野」に置かれたようだが、まさにこの付近がその地にあたる。江戸時代には薩摩街道になり、付近には熊本・新町から十里であることを示す十里木があった。街道を見守る複数の祠(写真③)に、当時の面影を見るこ

とができる。

用水路は麓川用水路(新川)である。これは文化五年(一八〇八)の七百町新地干拓の際に球磨川から引かれたものである。一説には、龍峯地区の岡小路まで引かれていた水路を延伸したとされており、そのため「新

川」とも呼ばれる。確かに「妙見宮知行宛行社山絵図」(元禄六年一六九三)には妙見宮(現・八代神社)境内脇から山裾を北上する水路が描かれている。ただしそれは水無川から引かれている。とすれば麓川用水路は、球磨川から導水し、この水無川からの水路に合流させ、新田への水量を確保したものと考えられる。ちなみに付近は平安時代からの良好な水田地帯であった。

昭和三十七年(一九六二)、用水路は不知火幹線として、コンクリート護岸に改修されてしまった。かつて土手の頃には、飛び込み台を置いて水路に飛び込んで遊んだと言う。境内参道を含め、三本の眼鏡橋も架かっていたようである。

とこころでこの地にはかつて、相良長

毎が永正十年(一五二三)に創建した日證山成願寺があった。相良氏が本格的に八代を手に入れた九年後のことである。交通の要衝と水田地帯への用水をpushさえつつ、古麓城の鬼門封じとすることを目的としたようである。薬師堂の棟札にはその様子を、ただただ広い寺領と大きく立派な堂宇であったと記してある。「八代市史」は一〇九または二二〇メートル四方の大寺であったと推定する。しかし残念ながら小西時代に衰退している。

北片宮はその鎮守であった。妙見神を祀り「片野川妙見社」と呼ばれていた。そもそも相良氏は妙見神に軍事的な守護を祈願しつつ、八代の支配機構としても活用していた。寛永八年(一六三二)に植柳妙見社を再建する際、片野川妙見社の社殿を



写真③ 街道の祠に祀られる弁財天像(天保十四年=一八四三)

移築したというから、小西時代にも相応の社殿が残っていたであろう。

またこの境内は、用水路の改修以前まで、用水路に直結する濠で周囲を囲まれ、濠には清泉が湧き出たようであり、妙見神の水神としての性格に着目すれば、清泉の守護も妙見神を祀った理由のひとつであろう。ちなみに今も梅雨には水があふれ出る湧水がある。

一方薬師堂は元禄七年（二六九四）、村人らにより、成願寺を復興し村内の安泰を祈願すべく創建されたものである。棟札には「成願寺薬師堂」とある。この棟札は文政三年（八二〇）のものであり、今の建物が約二〇〇年前のものだとわかる。

あらためて境内を歩いてみよう。薩摩街道から水路越しに眺めれば

（写真⑤）は、内陣に丸柱の前柱を立て、その組物は出組とする。薬師堂は、北片宮より屋根を高くそびえさせ、勾配も急である。裏に倉庫が増築されているが、それを除

まさに山裾の際に二棟が並び立つ。右に北片宮、左に薬師堂。北片宮は幅が約十尺で吹き放し、薬師堂は幅が約五尺で、軒下の小壁は格子であるが、そのほかは板壁で閉鎖的である。にもかかわらず両者は、街道へ正面を向けて並行して立ち、どちらも屋根を入母屋造の妻入とし、妻飾りともに狐格子で、まるで仲睦まじいペアの夫婦のようである。

さてコンクリート橋を眼鏡橋だと妄想しつつ境内へ。二棟に対し斜めにアプローチする。ここはかつて濠に囲まれた島状の境内であった。北片宮の軒を見上げれば、桁を突き出し小天井をつくり（写真④）、瓦には妙見宮の社紋、丸に二引き両紋がある。社殿は、今では本殿と拝殿を一体とする小社で、本殿と拝殿は引き分け戸を境界とする。本殿内部



写真④ 北片宮の小天井



写真⑤ 北片宮の本殿

けば三間四方の正方形平面である。正面はもちろん側面も、中央の間を京間六・三尺とし、脇間に対し四・三の比で長い。これは八角円堂をつくるのにちょうどいい比率である。求心性が意識されており、本来の屋根はピラミッド型の宝形造ではなかったかとも想像する。



写真⑦ 薬師堂の彩色が残る仏壇前柱（早野彰人氏撮影）

薬師堂も北片宮も平成二三年に屋根改修をしているが、以前の形式を踏襲している。昭和三年（一九二八）にも屋根改修をしているが、そのときは茅葺きを瓦葺きに変更している。もし宝形造であったとすれば、それはいつ頃までだったろうか。

組物一つない質実な堂宇を、引き分け戸を開け内部へ入ると、内外陣の境界一面に、太い縦子の格子を立てている（写真⑥）。さらに格子戸を引き分けると、中央に仏壇がある。残念ながら薬師如来立像は半世紀前に盗難に遭い、新たな坐像が祀られている。仏壇の前柱や組物をよく見ると、彩色が残っている。質実な空間の中にあつて、驚きをもってわずかな彩色に出合う（写真⑦）。

組物一つない質実な堂宇を、引き分け戸を開け内部へ入ると、内外陣の境界一面に、太い縦子の格子を立て

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】



写真⑥ 薬師堂外陣。内陣の境に格子が立てられる

# くまがわすじの考古地誌

(13)

## 球磨川筋の弥生時代<sup>⑬</sup>

八洲開発株式会社 木崎文化財研究室長 木崎康弘

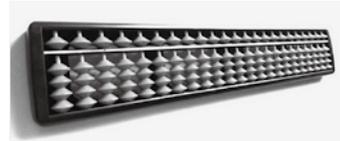
(NO.174)

### 「免田式」と呼ばれた土器って どんな土器？

一九一九（大正八）年に発行された『京都帝国大学文学部考古学研究報告 第三冊 九州に於ける装飾ある古墳』の巻末の「弥生式土器形式分類図録」（文献①）に掲載された、「日向小林」と添えられた土器。また、東京帝国大学理科大学（現・東京大学理学部）助手の柴田常恵が、一九二六（大正五）年の六月の終わるか七月の初めの頃、免田村（現・あさぎり町免田）の本目で直接譲り受けた土器。さらには、一九三二（昭和七）年、小林久雄（文献②）、坂本經堯・小林行雄（文献③）が考古学的

に評価した土器。そして、一九三七（昭和二）年に、高田素次・乙益重隆が「肥後国免田町本目遺跡出土の弥生式土器」（文献④）と題する論文、紹介した土器。「免田式」とも、「重弧文」とも呼ばれる土器だが、それは、どんな形をして、どんな文様が付けられている土器なのだろうか。まず、そんなところから始めてみよう。

形から見てみよう。形の中で一番特



写真① そろばん



写真② そろばん玉

徴的なのが、胴の形である。一番引き合いに出されるのが、そろばん玉の形（写真①②）をしているところ。なるほど、胴の中程が大きく張り出し、

そして上に行くに従い、また下に行くに従って、窄まっていく。別の表現をすれば、空飛ぶ円盤のようでもある。そんな形である。もう一つの特徴は、頸の形である。窄まった肩部に、やや開き気味に長くのびた円筒形の頸部が乗っている。所謂、「長頸壺」という表現で説明されることも多いが、そんな特徴からである。また、底は、丸みを帯びた形だったり、狭く平らな形だったりしている。

この他、長頸壺の器形の他に、瓢形の土器もある（図①④）。また、二重の口縁を持つ壺（図①⑤）にも類似した文様が施されるものがある。

次は、特徴的な文様である。文様が付けら

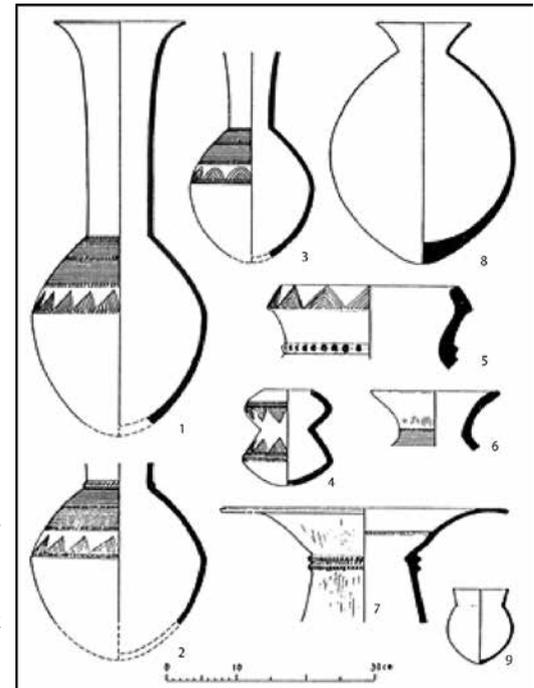
れている部分は、強く張り出した胴の上半面である。その文様の基本的な種類は、棒の先を土器の表面に押し付けながら引張ることによって付けられた沈線文である。

まず、胴上半面の上半部には、平行して引かれた幾筋もの平行沈線文がある。そしてその下の下半部には、土器名の由来となった重弧文がある。重弧文とは、複数の平行沈線文を二つのセットにした半裁の同心円文のこと。

その半裁の同心円文を左右に連なり合わせて付されている（写真③、図①③）。ただし、そのみではない。多種多様な構成の文様が見られるのである。例えば、ノコギリの歯のように、三角文を連続させた文様（鋸歯文）（図①①、②、④）、短い斜め線を綾杉状に組み合わせた（綾杉文）（図①⑤）、複数本の沈線文をウェーブさせた波線



写真③ 重弧文土器



図① 重弧文土器の器形・文様の各種

沈線状を交叉させた交差波状文などは、その代表例。そしてその下段には、

三本前後の平行沈線文を付し、それらを縦方向の短沈線文で刻んでいった文様がある。

ところで、本連載の二一の中で、重弧文土器の分布について、「二部川内川上流域や大淀川流域にもみられるもの

う。それをより詳しく取り上げたいと思う。

分布の中心は、これまで「肥後」域と呼んできた地域である。それでも現在の福岡県の南部を流れる矢部川や筑後川の流域にも、僅かな分布を見ることのできる(図②)。また、福岡県東部にも僅かに遺跡が見つかっている。

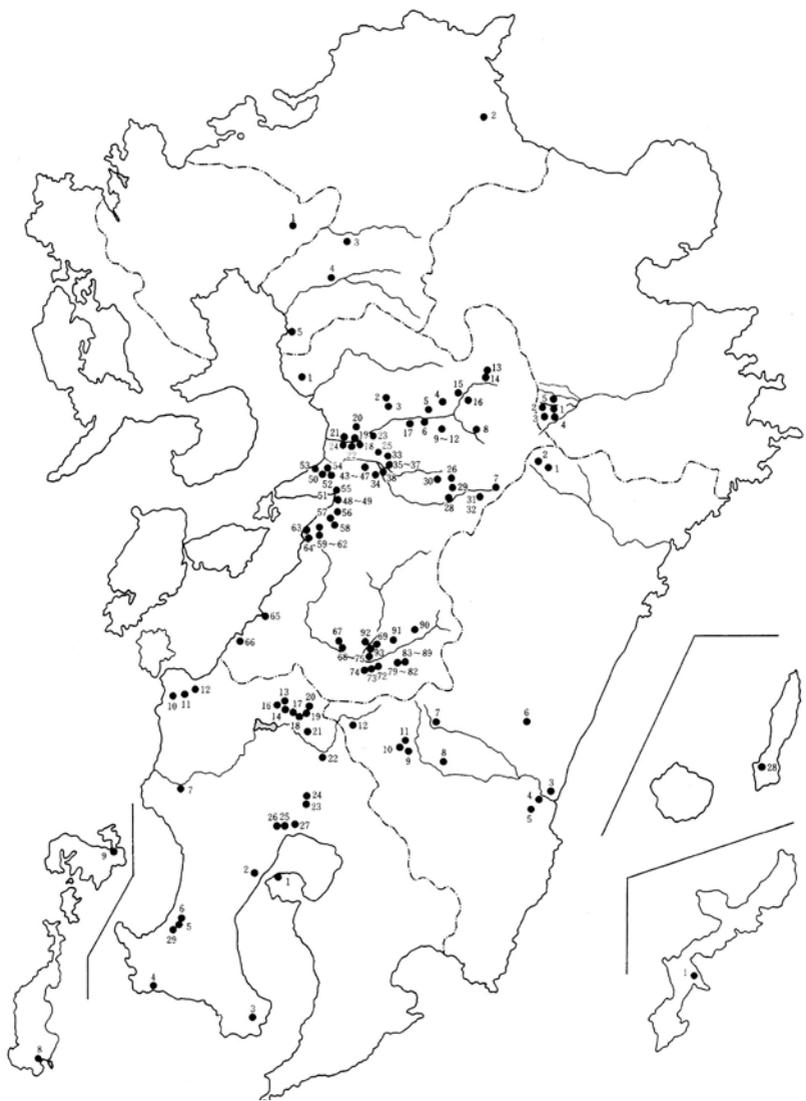
の、濃密に分布するのは、白川流域と緑川流域、そして球磨川流域であることがわかる」と簡単に紹介していか

一方、鹿児島県や宮崎県では、その北半部に多くの遺跡が分布している。本連載二で、「川内川上流域や大淀川流域」とした地域だ。川内川上流域では、宮崎県えびの市から鹿児島県伊佐市にかけての地域。一部、下流域でも出土している。大淀川流域では、上流域と下流域に分布。その他、薩摩半島にも僅かながら分布が見られるようである。

なお、「肥後」域(熊本県)の中でも、菊池川流域に分布していないこと、さらには、大隅半島に分布が見られないことにも注意が必要である。

文献①濱田耕作・島田貞彦・梅原末治「弥生式土器形式分類図録」(『京都帝国大学文学部考古学研究报告第三册 九州に於ける装飾ある古墳』、一九一九年)

文献②小林久雄「肥後国下益城郡隈庄町出土の弥生式土器」(『考古学』三一、一九三二年)  
 文献③坂本経堯・小林行雄「九州弥生式土器の一様式」(『考古学』三二、一九三三年)  
 文献④高田素次・乙益重隆「肥後国免田町本目遺跡出土の弥生式土器」(『考古学』八一、一九三七年)



図② 重弧文土器の分布



# 木崎考古学と遺跡 ②

## 1、高沢鍾乳洞・高沢洞窟遺跡（球磨郡球磨村高沢）

（木崎485〜487頁）

大きくいえば、二つの理由で、この遺跡を調べにいった。第一に、「高沢」という場所である。高沢地区は隠れ念仏の里の地として有名で、中園川河口から約8キロ上流の峻厳な山中にある。縄文海進を考慮したとしても、縄文時代でも山中にあったにちがいない。そういう地でアワビ、ハマグリ、ウババイの貝殻が発見されたという。その理由を知りたい。どこのアワビ、ハマグリ、ウバガイが、どのような経路を辿って、何のために、高沢にやってきたのであろうか。



木崎康弘著『肥後と球磨 その原史世界に魅せられし人々』人吉中央出版社(2017年6月)



坂本經堯 (1897 ~ 1974) (同書より)

か。カワウソの頭骨、脊椎骨などもみつかった。地域を流れる中園川にカワウソがいたのであろうか。いまの中園川は小さい。この小さい川でカワウソは生息できたのか。それとも以前は、中園川は現在とはちがう形をしていたのだろうか。想像しはじめるとキリがないが楽しくなる。考古学は本当におもしろい。



旧高沢小学校（球磨郡球磨村高沢）

第二に、坂本經堯が調査している点も重要だ。坂本は熊本考古学の大人物で、高田素次を語る時避けて通れない人物である。その坂本の考古学人生を考えると、同遺跡をどのように調査したのか、どのように評価したのかは重要な意味をも

つ。同遺跡を調査したとき、坂本は37歳（高田は22歳）であった。働き盛りである。精力的に活動していたであろう。それでも高沢調査は簡単ではなかったようである。

木崎によれば、1934年（昭和9年）9月26日、神瀬村高沢の高沢尋常高等小学校運動場工事で鍾乳洞が発



高沢鍾乳洞・高沢洞窟遺跡



見され、縄文式土器、磨製石斧、アワビ、ハマグリ、シカ・イノシシなどの獣骨が出土した。第一発見者について木崎は触れていない。工事関係者が第一発見者だろうか。工事関係者は縄文式土器であると直ぐに分かったのだろうか。このあたりの事情は不明である。それから20日後の

10月16日、大阪毎日新聞がそれを報道した。これもよく分からない。同新聞はどのような経路を経て出土の事実を知ったのか。これについても木崎は触れていない。いづれにせよ、同新聞で遺跡出土を坂本は知り、同年10月21日、高沢に赴き洞窟と出土遺跡を調査した。

木崎によれば、坂本は10月20日に白石駅で下車している。妻の松江と出口九州男が同行していた。その日は神瀬に宿泊し、翌日の「十月二十一日、午前七時発、段の峠

を高沢小学校訓導西村靖彦君案内にてあへぎ登る。「あへぎ登る」の行をみておもわず笑ってしまう。たしかに、そうだろうとは思ふ。しかし、高沢地区の人に話をうかがうと「大したことはない」。高沢の子供たちは神瀬小学校まで通学していたという。

施錠してあったので内部に立ち入れなかったが、坂本たちは内部を調べている。作業を終え午後3時に高沢をあとにして、5時28分発の列車で熊本に向けて出発している。木崎は、「その道中の高揚感は相当なものであったはずだ」とする。

中園川と球磨川の接する地点から下流300メートル付近の左岸に有名な「ハマグリ石」があるが、それは偶然であろうか。おそらく偶然であろう。

坂本が通った「段の峠」については、松野翔吾「大蔵山と段の峠」本誌12号3頁以下参照。松野によれば、坂本が利用した道は現在ではほとんど利用されていないようである。

本遺跡については『球磨村誌(上)』318頁以下も参照(高田素次の『球磨郡史』での解説も全文引用されている)。



四つ塚古墳群(三つ塚古墳群)(球磨郡錦町)



## 2、四つ塚古墳群(三つ塚古墳群)(球磨郡錦町)

(木崎492~493頁)

坂本経堯は、1935年(昭和10年)8月16日から一週間、球磨の遺跡調査を実施している。そのとき、坂本は38歳(高田は23歳)で、調査日程は高田素次が立案している。



この調査については木崎489頁以下で説明されているが、高田の立案能力に誰でも驚くであろう。23歳の若者の立案とはとてもおもえない。坂本と高田の関係を確認するためには、木崎のこの箇所

は見逃せない。四つ塚古墳群だけでなく、他の古墳調査などの説明も合わせて読まれるべきである。

そのことを前提にしたうえで四つ塚古墳群についていえば、同年10月19日に、坂本は高田らと共にこの古墳群を

調査したようである。この調査で坂本は「合計四基」と説明しているが、木崎は円墳は三基しか確認されていないとし、坂本の説明を「追認することは、現状では困難」と結論づけている。こうした事情があるから、錦町は「三

つ塚古墳群」とし、木崎は先行研究を尊重して「四つ塚古墳群」と表記するのだが、1935年から現代までの87年間にひとつの円墳は本当に失われたのであろうか。そうだとすれば、なぜか。開発の結果か。あるいは、それ以外の原因によってか。もしかして坂本たちは誤認したのか。こういうことを考えながら読みすすめる、木崎考古学に思わずのめり込んでしまう。

# 私とツクシイバラとの出会い

球磨川ツクシイバラの会 野呂 たけし

私がツクシイバラを知ったのは、平成26年の春、人吉への勤務が決まってすぐのことでした。球磨川関係の仕事に携わることとなり、勤務先の前任者から引き継いだのが、「球磨川にはツクシイバラが自生している。これを大事にせんとツクシイバラの会の会長さんからしこたま怒られるぞー」といった内容でした。この時点ではツクシイバラとはどんなバラなのかもさっぱりわからず、ただツクシイバラの会長ってどれほど怖い人なのだろうかと、出会わずに済めば良いなど考えていたことを思い出します。

たのでした。

ツクシイバラとの衝撃的な出会いを経て、ツクシイバラとその自生地の保存活動を行っているツクシイバラの会に興味を持つことになりました。翌春の1回目の活動からボランティアで参加することになります。

活動は例年、1月からゴールデンウィークのころにかけて1か月に1回のペースで自生群の手入れを行います。訪れた方がツクシイバラに近づけるように周辺の雑草を刈るグループ、きれいに成長するようにツクシイバラに絡まるツタを取り除く作業を行うグループに分かれるのですが、鎌を手にとった私はツタの除去作業に加わりました。

皆が必至でツタ(葛)を取り払っている中で、ポツンと取り残されている株を見つけたので、そこで一所懸

さて、人吉で過ごし始めて間もなくすると、ツクシイバラの会から球磨川河川敷の自生地で無料コンサートをするとの案内が届きました。これはツクシイバラと怖い会長さんのお顔を拝見するチャンスだろう！とこっそりとコンサートの会場へ行ったのでした。

もともと音楽好きだったのでコンサートも楽しみにしていたのですが、会場に着き、河川敷に停めた車から一歩踏み出すや否や、甘く繊細なバラの香りが私の鼻をくすぐりました。淡いピンク色の小さな花がいつぱ

命作業しておりましたら、会の方から「あら、野呂さん、それ、ツクシイバラじゃなくて野イバラよ。」と冷やかな一言。時期はまだ冬でしたので、花もない葉だけの状態なのですが、何でもツクシイバラと野イバラでは花だけではなく、葉にも違いがあるようです。葉がざらざらしているのが野イバラ、ツルツルして光沢があるのがツクシイバラなのだそうです。その違いを教えてもらった時、ますますツクシイバラをもっと知ろうという意欲に沸き立てられたのでした。

そして、この手入れ作業に参加させていたから、会の皆さんの温かさ、やさしさに触れあい、ツクシイバラが毎年しつかり花をつけていく過程を見ることができ、次の満開の季節にはすっかりツクシイバラとツクシ

い球磨川河川敷を飾りたてております。私はロマンチックとは縁遠い方なのですが、さすがにこの衝撃的な空間には感動してしまいました。そして、次の衝撃は耳に飛び込んできた音です。熊本のデュオ、ピエントさんの軽快かつ心に震えるトークと小さき花たちの揺れとともに奏でられる音楽。この空間と音楽の風とが織りなす衝撃がさらに増して鼓動が高まるのを感じました。

コンサートが終わり感動の余韻に浸っていると、最後にツクシイバラの会の方々のあいさつがありました。会長さん、声に張りがあつて元氣澁刺そうなご婦人がその方のようにです。てつきり厳しく細かい方かなと勝手にイメージしていましたが、やさしそうな感じの方でホッとしながらも挨拶するのを忘れて帰ってしまっ

イバラの会に魅了されてしまっていたのでした。

現在、またもや転勤で人吉から離れてしまい、久留米の地に来てから2年が経過しておりますが、ツクシイバラの会員として、これからも球磨川に咲くツクシイバラに会いに行き続けるつもりです。今年もツクシイバラ発見から百年目。私とツクシイバラとの出会いから4年目。永いお付き合いとなるよう、これからもツクシイバラを愛でつつ、ツクシイバラの会長さんはじめ、会の活動で知り合った方々とのご縁も大切にしていきたいなと思っております。

みなさんも、球磨川のツクシイバラたちと出会ってみませんか。ツクシイバラの花言葉は「かわらない愛情」です。

## 意図した目的と予期せぬ結果

平岡優平

慶喜はなにを考えていたのか

慶応3年10月14日（1867年11月9日）、江戸幕府第15代将軍徳川慶喜は政権返上を天皇に奏上し、翌15日に天皇はそれを認めた。そのときの天皇は後の明治天皇。即位したばかりで、よむ15であった。政権返還の前日、慶喜は上洛中の40藩重臣を京都・二条城に召喚して政権返還を諮問し合意をとりつけていた。異論はでなかった。

同年10月24日（11月19日）には征夷大将軍職の辞職も朝廷に申し出た。国家統治の権限を返還しただけでなく、武家の棟梁としての地位も放棄した。慶喜は大名のひとつになった。その慶喜はなにを考えていたのか。その家臣たちはどう考えていたのか。一大名になったとはいえ、徳

川家の力は依然として強く、その後も政権の中枢を占めることが可能であると考えたのだろうか。その後、江戸城を開城し静岡に隠居を余儀なくされる結果になると予想していたであろうか。他方、薩長は政権を奪取できる確信があったであろうか。奪取後の政権運営に明確な方針をもっていただろうか。

過去の歴史をあれこれと解釈するのは容易だが、未来について明確な方向性を定め主体的に行動するのは簡単ではない。そのことを承知でいうが、当時の状況に照らすとき、江戸幕府の農本主義的封建体制の破綻は最終段階にあつて別の体制に移行せざるをえない事態にあつた。薄々それに気づいていても、よほどの認識力がないかぎり、当事者にはすべてが五里霧中であるかのようにであろう。

攘夷論は世界経済の動きを読み取れない完全な暴論であつたが、当時はその暴論を正論と確信している者も少なくなかった。上海戦争、黒船到来のなかで、ナシヨナリズムが強まり諸外国への警戒感が強まった。しかしながら、列強諸国を敵視しその徹底的排除を目指す攘夷論は実効性のない空論であつた。攘夷派と較べるとき江戸幕府が賢明であつた。「開国」は時間の問題であつた。農本主義的経済体制は崩壊し、商業主義・工業化への道は不可避であつた。しかし、その場にいる当事者にはそれがなかなかみえない。従来の方を継続することが安全かのように見える。旧来の状況を継続することもひとつの判断であるが、判断していることはほとんど自覚されない。再度言う。未来は不確定である。予測は簡単ではない。

安倍晋三はなにを考えていたのか

現在、幕末と類似した状況にあるだろうか。9月28日、衆議院は解散した。衆議院の判断で解散したのではない。安倍首相が衆議院を解散し総選挙を実施したほうがいいと判断し、彼の判断によって衆議院は解散した。衆議院

議員には任期があるが、その任期は短縮してもかまわないと安倍首相は判断した。総理大臣に、そのような権限が果たしてあるのだろうか。議会が首相を敵視しているから議院を解散するというのは理解できる。知事や市町村の首長もそうだ。議会が信任しないので住民の意見を確認するため議院を解散するという見解に無理はない。けれど議会と対立状況にないのに議院を解散できるかは別問題である。論理的に考えれば、解散する理由が見当たらない以上、議員の任期を短縮する措置は許されないように見える。議会は首相や首長の玩具ではない。解散は選挙に連動し、膨大な予算を費やすことになる。

総理大臣に衆議院の解散権があるかについては憲法学で長く論争になってきた。憲法学では否定説も少なくない。安倍首相は憲法第7条に解散権の根拠があるとす。同条は天皇の国事行為を定めた規定で、そのなかに衆議院の解散の宣言に関する規定がある。同条は、天皇は内閣の助言と承認にもとづき国事行為を実施すると定めている。それは結局のところ、内閣の長である総理大臣に解散の権限があることを示しているというのである。天皇の国事行為

を利用して議員の任期を短縮していいのか。そうした疑問が残るなかで、安倍首相は9月28日に衆議院を解散した。彼はそのときなにを考えていたのであろうか。小池都知事、前原民進党代表の行動を予期していただろうか。

### 国民はなにを考えているのか

幕末とちがいが、今は国民が国の未来を考える時代である。政治のことは分からないという人も多い。今後、日本がどうなるのか予測できないという人はもっと多い。マスコミの情報を信じない人も少なくない。同一の記事をみて、その記事に対する評価が分かれるときが増えてきた。「マスコミは偏向している」は流行語になっている。マスコミは、「事実を明白に反する情報」を意図的にばらまいているという。アメリカのトランプ大統領のように、批判の記事を「誤りの記事」といつも弾劾する例は稀ではない。マスコミ報道を丸呑みせよというつもりはないが、情報は重要である。日本の国民が、いまなにを考えているかは、まもなく判明する。個別の意思は分からないが、集合的意思は確認できる。

【ひらおか・ゆうへい／八代市】

## 残照「川辺川——そして

### 人吉海軍航空基地」

下 富永和信

#### 朝鮮国の人々、その思い出

航空基地建設のため多数の朝鮮国の作業員（強制的に動員されたのか、自主的に来たのかは私達には不明）が家族ぐるみで来日し従事していた。そのため柳瀬三石集落の廃校になっていた昔の尋常小学校の跡地に労働者のための飯場場が出来た。その棟数などは正確には憶えていないが家族総数で四、五十人位だったと思う。当時は軍関係管理下であったこと、また外国人ということもあったので集落の人との交流はなかった。

終戦となるや大半の人は引き揚げて行ったが四、五軒の人が残っていた。日本国中がその日を喰うや喰わずの大変な

## 寓意に満ちた短編11編を 北御門二郎の「心訳」で贈る 心に響く短編集

### 北御門 二郎・訳 続・トルストイ短編集



新たに編集された「蠟燭」「とびこめ!」「三人の息子」「悪魔はしつこく、神は殺し」「二人の兄弟と金貨」のほか11本編を収録

レフ・トルストイ／作  
北御門 二郎／訳  
表紙絵／藤さやか  
北御門すすぐ・たえ子／編

■A5判／並製本／184頁  
■定価 1,500円（+税）  
送料 100円

直販の  
申込は

北御門家 FAX 番号 0966-46-0255 へ

〒868-0015 熊本県下城本町 1436-4 の3号  
TEL・FAX0966-23-3759 info@hitoyoshi.co.jp

人吉中央出版社

時代で、生きていくためにはなんでもやらなければならぬ  
い混乱困窮の状況の中で彼等の苦労は計り知れないもので  
あったろう。

飯場の裏山では「どぶろく」を造っていたが、突然警察  
と税務署がやってきて容赦なく没収していった。その時の「お  
ばちゃん」達のアイゴーアイゴーと泣き叫ぶ声を七十年す  
ぎた今も忘れることはできない。

最後まで残った数家族のリーダー格の呉原さんは立派な  
方で、敗戦国日本で生きて行く決心をされていたのである  
う。彼は私の親爺を頼りにしていたようで、ことある毎に  
相談に来ていた。当時終戦直後は朝鮮国の人とは関わりた  
くないという世相時代であったなかで、うちの親爺は子供  
の私からみても親切に面倒を見ていたし、家族ぐるみで付  
き合っていた。

彼の弟（私より四、五歳上）も努力家で苦学して、自力  
で早稲田大学（第二部）に在学中であった。末弟も地元の  
我々よりはるかにまじめで優秀であった。時代の波に翻弄  
されてきた彼等はどうしているだろうか、と年をとったせい  
か歳月が経るにつれて思い出すのである。

## 赤トンボと敵機クラン

滑走路と柳瀬三石の間はかなり広い良質の畑地があった。我が家の畑の一部をつぶして航空機を格納する掩体壕えんたいごうが造られた。もちろん立ち入り禁止であったが、私達方キ連は整備兵士と仲良しになり「赤トンボ」に触らせてもらって興奮、得意満面の極みであった。ただ翼の端を持つて揺ると、赤トンボ全体が軽すぎて簡単に動くので、これには驚いた。四年生の頃、米国のグラマン戦闘機による航空基地襲撃が二度ほどあった。人吉上空から急降下して滑走路や施設目掛けて機銃掃射するのである。したがってグラマン機は三石集落の丁度真上を低空飛行して通過するので、私達は柳瀬橋の上から欄干にしがみつくとくようにしてパイロットの顔も機銃口の火をはつきりみる事ができた。

しかし、我らの赤トンボに比べてあまりにもその速さ、大きさの違いに度肝をぬかれた。その夜の夕食時にはいつもの通りに自慢話になったが、定番通り母から大目玉を喰らったのは毎度のことであった。

隊解散したという話と、他方では指揮命令による統制がとれず、中には物品(軍需品)の持ち逃げが始まったなどの噂話が飛び交った。基地の中が今どうなっているのか、これからどうなるのか知る由もなかった。どこからともなく木上村の地下壕に食料品などが隠されている話があった。そこで年上の従兄弟をリーダーに三、四人が自転車に小さなリヤカーをつけて調達(?)に遠征した。地下壕にはラベルの無い大小の缶詰が山と積まれていた。ダンボール箱には将校用と兵士用の乾パン。私達は乾パン函と大きい缶詰ついでに隣の壕から将校用軍服と帽子を調達し、意気揚々と持ち帰った。

早々に持ち帰った大きな缶詰を開けてびつくり、中身は茹でた大きな筍ではないか。一番がっかりしたのはおふくろで、「こぎゃん筍ばかりはいらんとよ、カタパンはありがたかね、もっと沢山持ってかえれば良かったのに」と欲の深いことを言った。翌日、今度は小缶は肉か魚の缶詰と聞いたので再度地下壕に駆け付けた。なんと昨日まであった缶詰類はもろろん、衣類などもほとんどなくなつて壕の中は荒れ放題であった。

## 一式重爆撃機「呑龍」の雄姿

昭和十九年のはじめに、我が国の空軍の期待の星一式重爆撃機「呑龍」が着陸した。周辺の人たちに見学してもよいとの知らせがあり、子供中心に沢山つめかけた。米国重爆撃機B29を小型にした爆撃機を感じてであった。しかし、当時の私達の目にはとつともなく大型の最新鋭機に感じた。搭乗兵も赤トンボの訓練兵とは段違いで頼もしく見え、当機の優秀性を誇らしげに説明してくれた。

当時の戦況を何も知らない私達は「この爆撃機があれば戦争に勝つばい」と無邪気に信じていた。戦後に知ったことであるがこの「呑龍」の活躍の場はあまり無かったようである。

### 戦い終わって陽が落ちて

そしてついに戦況は挽回不能の状況のもと昭和二十年八月十五日とうとう終(敗)戦を迎えた。田舎の子供の私達には全く信じられないことであった。

終戦直後の基地は秩序正しく重要物品を消去処分して部

木上村には基地司令部を中心に、一般には知られていない無数の地下壕が整備されて、食料雑貨以外の武器弾薬・工作機械など重要品が保管されていた。それら重要物品は内部事情に詳しい関係者が集団で持ち出して隠匿したとの噂が広がった。

終戦後まもなく復員して帰ってきた親爺がそんな噂話を兄から聞いて、特に工作機械は欲しかったと残念だったが後の祭りであった。

戦前戦後の大変厳しく苦難の時代に五人の息子を育て上げた親爺とおふくろはもうとつくにこの世にはなく、相良村柳瀬三石の累代の墓地に静かに眠っている。

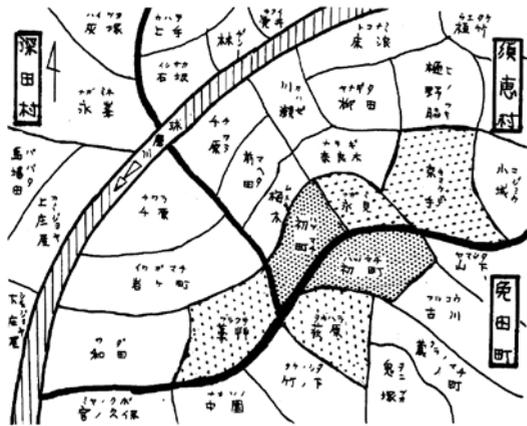
今年(平成二十九年)初春、実家を守り支えてきた長兄の米寿の祝い、兄弟全員全国各地から参集して私の友人の人吉鍋屋本館で開かれた。多くの人から兄弟五人が息災で米寿祝いにそろって参加できるとは珍しい慶事と賛辞を頂戴した。これも両親と兄貴のお蔭であると、素直に有難いことだと感謝の念を一層強くしているところである。

【とみなが・かずのぶ／山口市】

初町（ハツマチ）

— 須恵村、免田町 —

須恵村字初町と免田町字初町は境界線を挟んで向かい合っている。町



は街のごとではなく間地、即ち区域のことであり、人吉市田野町字長畝区は明治前期小字調査書はナガセマチの訓である。

初町という字名を見ながら、先人の無限についての考え方を垣間見る思いがした。無限は文字通り限りがないことであるが、区域の名称である地名に関しては無限は存在せず、有限の繰り返しが無限ということになる。

地名で表される区域には際限（境界）があつて、そこでその区域が終わると同時に、そこが次の区域の初めになる。始終という語に、絶えず、常に、結局という意があるのは終わりは始まりであり、初めは終わりであるという有

【おことわり】本連載は平成6年から9年にかけて執筆されたものの復刻版です。あえて合併前の町村名をそのまま使用しています。

限の無限思想 がうかがわれる。

免田町の町域は字初町で終わるが、須恵村の村域は字初町から始まる。阿蘇郡一の宮町中通字終（ヲワリ）は大字毛野との境にあり、菊池郡泗水町田島字終原（ツイノバル）は七城町との境界。この二カ所の終地名は「初地名」と同義であることが理解できよう。

『大言海』によると、初（始）のハジと端のハジは同根の語で、始むという動詞は端の活用形、また始・初は発端とも言うところである。

相良村四浦の旧初神村は五木村と接する境界の村で、建久二年

（1191）の「平川文書」に見える。はしかミ之村 のこととされる。

村名由来として山椒（古名ハシカミ）を産したことにちなむ、という説もあるが、納得しかねる。

五万分の一地図地名集成である『日本地名索引』によると端神（はしかみ）岩手県、初神（ハジカミ）愛知県、始神（はしかみ）三重県、椒（はしかみ）兵庫県、階上（はしかみ）大分県、広島県、京都府、榛峠（はしかみ）三重県、薑鼻（はしかみ）香川県、初神（はつがみ）北海道、初神（はつかみ）相良村四浦の初神のこと）などが出ている。

ハシ地名の変化例から考え、これらのハジカミ（ハツカミ）は初神にちなむ地名と推定される。初神の実態は

未詳であるが、諏訪神や熊野神、道祖神などと同じように、境界守護の役割を背負って境域の端に祀られた神と解釈する。椒（サンショウ）や薑（ショウガ）などは当て字であつて、端神が真意を表現しているように思われる。

免田町と須恵村の字初町を「村の開発着手地」とするのは用字にとらわれた解釈であつて、他地域の初田や初野などと同じく端区（はしまち）と考えてよいだろう。

端海野（タンカイノ）

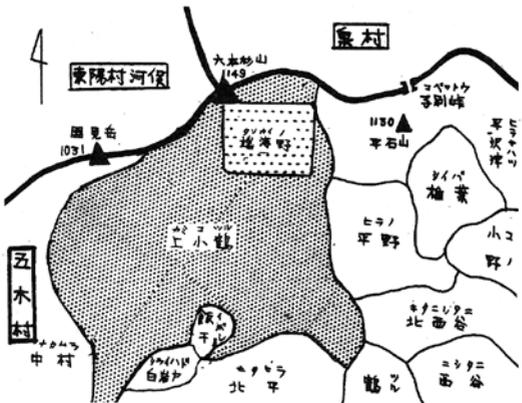
— 五木村 —

端海野は公式地名ではなく五木村字上小鶴（カミコツル）の域内にある通称地名である。しかし一帯は端海野森林公園であり、五木西小および五木一中の端海野分校もあつて行政地名

として定着している。

公式地名の字名でさえも初出文献を探しあてることが容易なことではなく、まして通称地名となると文献でたどることは不可能と言ってもよいほどである。

『熊本県の地名』（日本歴史地名大



人吉球磨児童生徒文詩集「やまぎり」から

第35号 (2009年3月発行) 選・作文の会

いままでありがとう

一勝地一小四年 中村かずき

ぼくが四年開通った校舎は、もうすぐ取り  
こわされてしまう。

「きみは、大雨の時でも一人だけのこつてす  
いじ。」

ぼくの校舎は、運動場の上の方にあり

「四年間ほんとうにありがとう。」

いつもぼくたちを見てくれているね。

でもきみはなぜこわされるの、

先生におこられてる時も

ぼくにはぜんぜんわからない。

外で遊んでる時も

でも、もうすぐおわかれだね。

帰る時も、

「じゃあね。」

いつもぼくたちを見守ってくれ。

「いつもありがとう。」

「きみは何十年も、ずっとずっと休まずにす

いっねー。」

【評】学校統合で校舎が解体されるのだろう。慣れ親しんだ校舎との別れのさびしき、毎日学んだ校舎への感謝の気持ちが伝わってくる。小学四年生の作者には壊されるわけがわからないようだ。

系44)には五木村の前身である近世の「五木谷村」が出ており、六十三件の集落の中に端海野が見える。ところが『五木村学術調査』(人文編)は文化十二年(1815) 絵図所載の五木谷村集落一覽を掲載しているものの、その中には端海野は記載されていない。

このように文献資料に頼っているのは通称地名の解明はすまない。このシリーズは字図を基にして地名を考えるのが主旨であり、対象は市町村字名にしぼっているが、端海野は★子別峠と同じく特例として取り上げてみた。

九州の尾根と呼ばれる脊梁山脈に六本杉山(1149m)がある。この山は五木村と八代郡泉村栗木、東陽村河俣の三村境地点であること

もに稜線は肥後・球磨(相良)の国境線であるところから、六本杉山の西方にそびえる山の名称は国見岳(1031m)である。

史学や文学では「国見は昔、天皇(豪族が領内を見わたしたところ)となっているが、地名としては区域の境目の意と考えられ、六本杉はX本木(Xは数詞)と同じく境木にちなむ地名の例が多い。『日本地名索引』には国見地名が六十余件、六本地名が十件あつて、その多くはムラ境の地名と思われる。

五木村端海野は六本杉山の北側斜面に広がる山地であるが、平坦な所もある。奥山と言っても公有林の中に農地として開発可能な土地があつたため、第二次大戦後の開拓事業の対象地に選ばれ、入植者が辛苦して今

日の端海野の姿を実現させた。

それにしても、僻遠の山地に海浜を思わせる端海野という地名がつけられたのが不思議でたまらなかつた。

いろいろ思案しながら五木村の字図に所在地を書き入れてみた。その結果、端海野の「海」は「界」の当て字であろうと気付いた。界は境であり、端境という熟語がある。

古米に代わつて新米が出回る旧暦九月を端境と言つたのが始まりらしいが、土地区域表現としては、ムラの端・隣村との境という意で端境というネーミングが可能である。野は山野のこと。端海野はハシ・ハス系と同類の境界表現と解釈され、古くからの呼称だつたと思われる。

【うえむら・しげじ/宇土市生まれ、元熊本日日新聞社記者】

## ガス灯とよぼり

永野にや、かみ(上)に薬師さん、しもの公会堂んとけえにや観音さん、はちやあ(八合)にや文殊さんのおいやいたで、そんな祭りん晩にや、町から来た屋台店の、電気やあ無かつたもんで、ガス灯ばとめえて明かりんしとつやつた。

中きやカーバイトば入れて、上ん水溜めからネジば緩めてちつとずつ水ば落とせばガスん火口から出てくつで、そんなに火ばつくれば、水の落としぐやあで、明こうなつたり、暗ろうなつたりしおつた。

「よぼり」晩飯どん食うて、「今

夜は闇夜じゃつて、よぼりとまいかずうば」ちゆうて、明つかうちから研でえでおいたイザリばもつて、茶摘テゴば腰にいっけて、ガス灯にカーバイトば入れてから、

やつとで見ゆつぐりゃんとこつて、やつだけイザリン先の全部ぬかつてえ斜めん突きおつた、真横んして突けばぬかりやせえじにや聞んはさまつて逃げられおつた。



取つてきたウナギや、そんな晩んのうちい、切り板にビンタばイギリでうつつけて、ぬめらんこてえボウブラン葉でウナギば握つて、背割りばしおつやつたで、まねしてじゅつてみつとないどん、腹ん方に包丁ん突き出たり、途中で打ち切れたりしおつた。

明かりばとめえて田植えんしまえた畦をば、いっちよいっちよ見てさきおれば、田ん中きやウナギの

ポウブラはへチマやニガギユウリといっぺんに、夏ん日よけに植えてあつた。

なあごうなつとつとんおる、明かりん芯のウナギん当らんこてえそろつといたて、明かりんぐるりん

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

## 倉敷便り

10

原田正史

### 続・兵士たちのこと

#### 予科練生

兵士たちの中に、格別の用件もないのに私たちの所によくやって来て、何かにつけて嫌みを言う者がいました。年の頃は二十歳過ぎと思われ、従つて階級も二等兵曹くらいだったと思います。兵曹級になると若い中学生などには関心が無く、近づくとさえありませんでした。しかし彼だけは例外で、その少年時代のどこかで中学生を憎悪するような事件があったとしか思えない態度です。しかしこれは江戸の敵を長崎で討つ

ようなもので、中学生というだけで目の敵にされるのでは、無関係な私たちにとつては迷惑千万なことでした。

事件が起きたのは私たちが仕事を終え、旧柳瀬橋に向かって道路を歩いてきた時のことです。私たちの背後から例の嫌み男が自転車に乗り、ベルを鳴らし、「公用だ。そこどけ」と叫びながら近づいて来たのです。

気の合う者同士でグループをつくり、十四、五人が横一列に並んで道いつぱい広がり歩いてきた私たちは、気の利いた同級生の「全員右側に間隔を詰めて、道の左側を開けろ」と

いう指図に従い、自転車が十分通れる幅に道路左側を確保しました。

ところが嫌み男は、左に進まず、そのまま直進して、私たちの列の前で停止しました。「何故、道を開けんのか。公用なんだぞ」「左側を開けたろが。目は見ゆつとか。馬鹿たれが」と罵りました。これを見た柔道の猛者三、四人が、自転車にまたがっていた男を有無を言わせず、道路左端まで引きずって行き、自転車ごと土手に突き落としましたのです。やがて青ざめた顔で上がって来た男は「貴様ら、このままで済むと思ふな。公務妨害で軍法会議にかけ、必ず思い知らせてやるからな」と叫びました。弁の立つ同級生がそれに応じ、「よし分かった。軍法会議開催の場合、俺たちは配属将校殿に、

今日の出来事を詳細に貞申することにする。俺たちは現在、陸軍の管轄下にある。従って、その時は陸軍から海軍に対して申し入れがあるだろう。ここではつきり言うておこう。それは、海軍は陸軍に絶対勝てないということだ」と言い、釘を刺しました。

その後、何日たつても軍法会議は開かれることはなく、嫌み男が私たちのところに姿を見せることもありませんでした。

当時、米軍の本土上陸が目前にせまっていることは、衆知の事実であり、上陸の場所は鹿児島県吹上浜とされていました。従って、南九州には陸軍の大隊が集結し、小学校の校舎はすべて兵舎となり、いたる

中と夜の急激な気温差があります。やがて予科練生全員の手が霜焼けとなつて赤く腫れ上がり、中には指の皮膚が破れ膿んでいる者もいました。彼らの年齢は十四、五歳くらいで、生意気盛りで人の事など気にしない私たちができても、弟くらいの年頃の哀れな彼らを見ると可哀想でなりませんでした。

予科練生と全く無関係な私たちにとつて、記憶に残るもう一つの出来事があります。それは数人の予科練生が大きな魚の背骨を手にして小屋の隅で涙ぐみながら、しゃがみ込んでいました。理由を聞くと、上官から栄養を摂るため喰うよう命じられたとの事でした。「ライオンや虎なら喰えるにしても人間がこんな大きな骨を喰えるはずがなかる

所に兵士たちがあふれかえっていたのです。人吉中学でも、以前は全く考えられないようなことが始まったのです。それは一日限りではありましたが、武器庫に嚴重に保管されている三八式歩兵銃を家に持ち帰るよう命じられたことでした。おそらく実戦参加を目前にして銃の取扱いを習熟させる目的だったものと考えられます。

私たちもこの事を敏感に察知し、誰にも話すことはありませんでした。米軍上陸の際には菊の紋章が刻印されている天皇陛下のこの銃を持つて突撃する覚悟であり、死さえ恐れることはありませんでした。年の頃十七、八歳の情熱的な少年時代を軍国主義的教育によつて培われた私たちは、当時流行した「花も蕾

う。そんな馬鹿なことを命じた拔け作上官の口に、この骨をねじ込んでやれ」と言つたものの、私たちには何の手立てもありませんでした。

予科練生がやつて来た頃には米軍の艦載機による空襲もあつて、もとも飛行機が殆どいない人吉海軍航空隊でしたが、一機もない状態でした。従つて予科練生に対する訓練も満足に出来なかつたと考えられます。

なお、前述した新司偵逆転事件について、逆転したのは別の機種だとする記録が存在するとの指摘がありました。恐らくこれは逆転事件を見ていない人が、後になつて記述したものでしょう。逆転したのは間違いない新司偵であると断言します。また、特攻隊員が訓練に参加した

の若桜、五尺の命ひっさげて、国の大義に殉ずるは、我等学徒の本分ぞ、あゝ紅の血は燃ゆる」という歌と同じような心境であり、それだからこそ現役の海軍兵士に堂々と立ち向かえる事が出来たのです。命が惜しくなつたのは、終戦以後の事でした。

海軍予科練習生徒、すなわち予科練を見たのは、新司偵逆転事件の時でした。正確な人数は知りませんが、数百人はいたでしょう。飛行機の操縦士養成を目的とする霞ヶ浦の予科練生とは違い、人吉の予科練生の兵科は整備であつて、出身地はおもに東北・北海道とのことでした。

そしてこの出身地の違いが予科練生の体に思わぬ災いをもたらしたので、冬の人吉盆地は、北国育ちの予科練生が経験したことのない、日

とする見解もあるようですが、飛行機が一機もない飛行場で訓練できる筈がないのは、明白な事です。彼らは前の基地で訓練を終わり、鹿屋基地に向かう日を待つていたのです。

私の家がある中世城跡地の熊本県人吉市中城町近くの高台には予科練習生の記念碑が建てられています。ここを訪れた予科練生だった人たちは、高台に立つて何を思い、何を偲んだでしょう。多分、戦争という大きなうねりの中に引きずり込まれ、漂い続けた少年時代に思いを馳せ、戦争の空しさ悲しさを痛感すると共に、訪れた平和の喜びをしみじみと噛みしめたに違いないと思います。

【はらた・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

## ヘミングウェイ『老人と海』

# 自信と希望

白城松男

人は、なんのために生きるのか。人生に目的はあるのか。日常生活は忙しく重たい。だから通常は、そのような哲学めいたことは考えない。

あまりに漠然としていて、いくら考えても結論はでそうにない。ヘミングウェイも哲学書として本書を書いたのではあるまい。しかし、すぐれた小説は哲学的問題を提起する。原作は1952年に発表された。革命（1958年）前のキューバの漁村風景を描いた作品でもある。へ

ミングウェイは本作によってノーベル文学賞受賞を確実にした。

### 老人

男は老いていた。成功者としてではなく貧乏人として老いた。老いた身で、メキシコ湾の潮流に小舟を浮かべ、ひとりで魚をとって日をすごしていた。子はいない。妻はいたが、早くに亡くなっている。男は痩せこけ、うなじには深い皺、頬には過食のシミがあつた。男は狭い小屋で生

活している。食べ物はなく、衣服はつぎはぎだらけであつた。投網はずでに売り払い手元になかつた。男は漁にでたが、一匹も釣れない日が84日も続いていた。男は釣れるか釣れないかを「運不運」の問題として考える。

年老いた漁師のなかに男をみて心を暗くする者もいたが、多くの漁師は男を馬鹿にした。男は怒ることはなかつた。老人は夢をみる。夢には、暴風雨も女も大事件も登場しない。魚も、魚たちとの戦い（漁）も、死んだ妻も登場しない。夢には彼が行つた土地のこと、彼がみたアフリカの砂浜のライオンのことであつた。ライオンは砂浜で子供のよう

年を可愛がつた。しかし、男の夢に少年は登場することはない。フロイトが男の夢をどのように解釈するかは別にして、男にはその夢が心地よく感じられた。

男は、大物をつりあげる機会は今もう訪れないと考えているのではない。かれのうちには、希望と自信が燃え尽きていない。男の目は不屈の生気をみなぎらせているのだ。そして、じつさい男は格闘のすえ大物を

釣り上げたのだが……港にたどり着くまえに獲物はサメにすべて食いつくされてしまう。ヘミングウェイは、草稿では、男は大泣きしたと書いた。周知のように作品の結論は改められている。

以上、粗筋を詳しく書いた。2時間もあれば読める短編である。男は死に至るまで同じように過ごすのか。同じように過ごすつもりでも、それを可能にする状況はあるのか。

失わず困難に屈しない男の物語と要約していいか。それは困難の内容によるだろう。

### ラ・マルとエル・マル

男はなにごとについても古かつた。男にとり、海は女（ラ・マル）であつた。愛するときも罵るときも、海はラ・マルであつた。新しい道具をあやつつたりして大儲けし、その金でモーターボートを買ひ込む若者もいる。その連中は、海をエル・マルというふう

男には未来がないようにみえるが、それは「運が悪かつた」の結果にすぎないのか。それとも運不運で片付けることのできない問題がそこには伏在しているのか。嘲笑を受けても誇りを



『老人と海』ヘミングウェイ  
福田恆存訳（新潮文庫）  
昭和41年6月15日

## 外来語から学ぶ英単語 (19) …… 藤原 宏

エイ・エム ピー・エム ピー・エス ピー・ティー・エス・ディー  
A.M. P.M. P.S. PTSD

午前、午後を表す A.M. (a.m.)、P.M. (p.m.) は、ラテン語の「ante meridiem (アンテ メリディエム)」、「post meridiem (ポスト メリディエム)」の略号です。

ante と post はそれぞれ、時間的・空間的に「…の前の」と「…の後の」を表す接頭辞です。M は「meridiem (メリディエム)、正午」の略ですので、A.M. は「正午の前」、P.M. は「正午の後」となります。午前9時は 9:00 A.M. のように書きます。

手紙の後に追加して書くときに使う PS は「postscript (ポストスクリプト)、後書・追伸」の略号で、「post (…の後の) + script (書かれたもの)」が原義です。script は、脚本・台本・手書き・原稿などの意で使われます。

「post - traumatic stress disorder (ポスト トウローマティック ストレス ディスオーダー)、PTSD、心的外傷後ストレス精神障害」、「postgraduate (ポストグラジュエイト)、大学院の・大学院生」などの接頭辞 post も同類です。

「antique (アンティーク)、古代(風)のもの」や「antimissile (アンティミサイル)、対ミサイルの」の anti も上記の ante と同根です。 (385)



— 2017 臨時国会冒頭解散 あなたの1票で決まる —

安倍政権の信を問う選挙と言われても、どうして急に解散なのか? 解散の大義も曖昧。今こそ国民主権を発揮する時。10月22日(日)、投票所に出かける時!

うんぐ…  
げっかん・ぎびょう

はいない。いま、男のような眼差しが求められているように見える。もちろん、ミングウエイは時代の先駆者ではない。彼は、キューバの老いた漁師をそのままに描いたのである。

彼は時代の記録者であった。渡辺京二がいうように逝きし時代の面影のうちには価値あるものが宿っているのであるか。たぶん、そうであろう。男のなかでは人間と自然は分離していないが、そういう感じかたは以前の日本にもあった。男は漁師を愛し、漁師の息子のディマジオのファンであった。マリリン・モンローの夫であった、そしてモンローの夫として紹介されるのを嫌った、大リーガーのあのジョー・ディマジオである。

【しらすき・まつお／八代市】

## くまがわ春秋歌壇

いもこ短歌会

真摯とか丁寧をいう宰相はマスメディアにはいつも顔売る  
総るとき頭垂れると詠んだ稻食料自給は三八率に

三原 竹二

じゃがしやかとカバンゆらす子どもたら遠くの孫と重ねて映る  
草原に牛馬放たれたのつたりと風ふきぬける阿蘇の山々

坂本 ケイ

朝ごとに朝顔小さくなりてゆく吾も日に日に縮みてゆけり  
いくたびも道でつまづくわが身をば夫はさつと手を出してくれる

上田 廸子

薄赤く路傍に染まりし山の道木に絡まりて葛の花散る  
酷暑耐えすつくと伸びし彼岸花つんつんつぼみの赤らむを待つ

宮川しのぶ

裁判を傍聴に行くはるばると年金けずる政府許さず  
蓮池に白い花咲きトンボ舞う青井の宮に秋訪れる

吉岡 弘晴

シャツを上げ深くえぐる胸を指し「原爆憎し」と谷口さんは  
後睡の名前に恥じず生き抜き核なき世界に命を懸けて

上田 精一

※谷口稜睡さんの「稜睡」の名には、光が届かぬ所も隅々まで照らすの意味が込められているという。

# 湯前まんが美術館 (那須良輔記念館) 設立の頃 ③

溝下昌美

そうこうするうち、那須先生を顕彰する「まんが大賞」の設立や、まんが関係のイベントを開催することが決まって、平成四年十一月開館となった。その前に館の建設調査等委員会が設置されたが、残念ながら研修室の規模を懸念する人はいたが、展示室を心配する人はいなかった。



宮崎精一先生と私

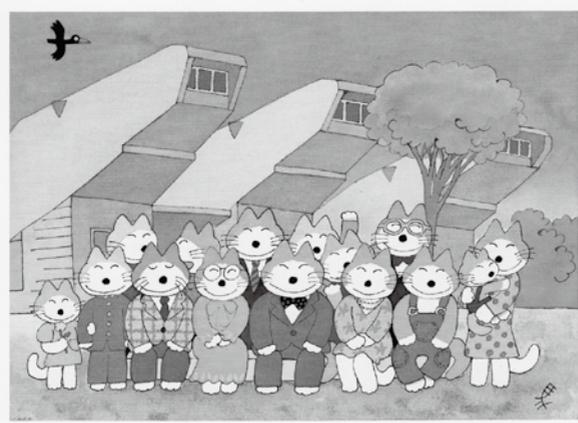
また、建物はできたが、開館後から雨漏りが続き、その補修を余儀なくされたり、展示室に腰壁があるため大きな絵が架けられず、壁面の補修を数回やった。

また、館の名称は「那須良輔記念館」から現在の「湯前まんが美術館」に変更されていた。社会教育施設として、国から補助金も頂くことから、個人名冠の館は、行政にはなじまないとのことだったのでどうか。記念館という名称がすでに、古びているというところもあつたのであろうか。

開館へ向けての事業が進む中で、那須先生ゆかりの漫画家やマスコミ関係者、イベント関係者などとお会いしたが、飲んでいても最後にはギョラや経費の話になり、どうやって予算を組むのか、苦慮することも多かつ

た。また、町議会ごとに上司からの指示で、旅費や食糧費などの補正予算を出すので、財政担当課長からは怒られることもあり、「なんで、私が…」と感ずることもあつた。

開館時は、「国際漫画・食文化フェ



馬場のぼる先生の「十一匹の猫」の絵葉書

スティバルinゆのまえ」と銘打ったイベントが開催され、漫画関係では、那須奥様をはじめ横山先生、馬場のぼる先生など、ほかたくさんの方々が来賓の方々が見えた。漫画大賞の表彰式を行い、那須先生ゆかりの宮崎緑氏の講演、下村婦人会の活動を題材に討論会などが行われた。展示室是那須先生の常設展と特別展「まんが集団展」だった。

特別展には河口湖美術館で開催中だった「まんが集団展」の作品を借りることとした。借用のお願いと打ち合わせに河口湖町へ行き、絵の輸送は運送会社へ委託することなど、はじめてのことだった。

その館長に励ましを受けたり、叱正を受けたりした。以後特別展では、打ち合わせ、借用、展示、返却・

御礼を重ねていくことになった。

翌年には、那須先生のご友人であられた宮崎精一展を郷土作家シリーズ第一弾として開催。その後、宮崎先生所蔵作品から「人吉を訪れた画家たち」として、海老原喜之助・吉井淳二等の作品を展示した。

平成六年には馬場のぼる展を開催、先生の絵本の原画から「十一匹の猫」シリーズを展示、ポスターは何と、まんが美術館と猫達を描いていた。この原画は御納めいただくにはならないと、恐る恐る申し上げ、その後、絵葉書にもさせていただいた。馬場先生は、故郷である岩手二戸のこと、「座敷わらし」のことなどを話してくださった。

【みぞしたまさみ／地域史研究家  
球磨郡湯前町】

問1 球磨川流域にある高校名をあげよ。(例：八代高校)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )
- ⑥ ( )
- ⑦ ( )
- ⑧ ( )
- ⑨ ( )
- ⑩ ( )

問2 球磨川本流にかけられている橋の名前をあげよ。(例：水ノ手橋)

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )
- ④ ( )
- ⑤ ( )

問3、○か×で答えよ。

(例：小山勝清は錦町出身である。 × ★正解は「相良村出身」)

- ①重盤岩眼鏡橋は芦北町にある。
- ②瀬戸石ダムは芦北町と球磨村の両者にある。
- ③エンブリー夫妻は帰国後に離婚した
- ④日本考古学の父・濱田耕作は人吉にきたことがある。
- ⑤マルクス『資本論』は大政奉還より先に刊行された。
- ⑥西郷隆盛は、西南戦争のとき、球磨川を利用して八代にむかった。
- ⑦横井小楠は学校党の代表者である。
- ⑧漱石の妻・鏡子は日奈久温泉に行ったことがある。
- ⑨悟真寺(八代市)には河童伝説がある。
- ⑩料理研究家・故江上トミはカレーライスを食べたことがない。

問4、写真をみて問い答えよ。

①行事名を答えよ



答 ( )

②古墳名を答えよ



答 ( )

③施設名を答えよ



答 ( )

※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは95頁で。  
★全問正解者には抽選で弊社の書籍をプレゼントします。ハガキ又は封書で弊社まで解答をお送りください。

# 不発の日本遺産観光

## 地域認識のリセットのために

安田 功

文化庁選定の鳴り物入りで始まったにも拘わらず、球磨人吉都市の日本遺産観光は不発のままである。しかし、議会や住民サイドからの批判は弱い。郡市統合ブランド戦略の重要性が共有されていないことと、当地在住歴史学専攻者から史実の裏付け欠落ゆえ、酷評を受けている。「ストーリー性」を強調されているが、その「ストーリー性」のおかしさに気づいていないことが主因である。

郡市統合ブランド戦略の不在は、

1970年代初頭より、先覚者、梅棹忠夫（人類学）、松下圭一（政治学）により主張された首長部局への文化行政部門の必要性が受信されておらず、学社分離による文化室未設置が遠因である。

いまの「ストーリー性」は、史実の裏付けを欠き、学問上問題があるだけでなく、観光面でも成功しているとは言いがたい。その原因は、全国レベルでの競争に勝つことを前提とした経済効果を考慮に入らず、文化

庁選定の為のみに特化した「ストーリー性」を、地元と中央の担当者の「すりあわせ」で決めるといふ摩訶不思議な決定過程にある。

郡市首長、議会、日本遺産協議会会員などのチェック不足も関係して相良の殿様と寺社と仏像物語に特化した「ストーリー」になっているが、最新の相良史研究では、南九州自立の流れに同調しようとする当地を、言わば「日本化」する為の支配装置として中央からの寺社群は誘致された、としている。当時の地元民の大半は古来の民俗宗教にトップリであったはずだから、誘致寺社群は「異国の神」としか映らなかつたであろう。仏教が民衆に根を下ろしたのは浄土真宗以降である。当地の支配者たる代官が、律令政府系であれ、平家系

であれ、鎌倉幕府系であれ、地元民にとっては「よそ者」の支配者にすぎず、まして言わんや「耳切り、鼻そぎ」の刑に象徴される残虐支配を下向先の九州各地で行った東国御家人の一派たる相良氏が住民からどの様に見られたか、明察にすべきである。

我々が東北に旅行に行ったとして、京都より進出して来た寺社や仏像を自らのシンボルとして提示するのを評価するであろうか？ それよりも、東北独自の土着文化の方と出合いたい、と思うのではないだろうか。日本中に展開した近畿を本貫とする寺社群は、かなり後世まで地元にとっては植民地文化だったと見るべきであろう。

日本を代表するポストモダン建築家にして、郡市日本遺産ブレーション

なられた隈研吾氏が、当地を「平安時代と出合える地」と規定された。本当だろうか？ 当地の平安仏教の

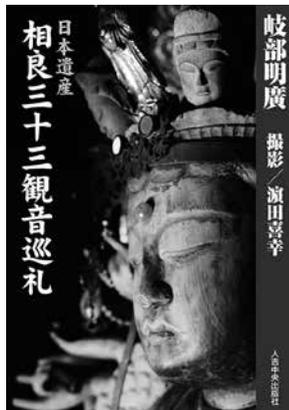
在り方、数度の大転換を経て、現在は形骸化の極みであろう。「**寺家**」と呼ばれていた大寺院は一大荘園領主でもあり、政治経済軍事と宗教が一体化しており、宗教に特化した現在の在り方からは想像するのも困難な姿をしていたと思う。当時の寺社群係者が平安仏教のなれの果てたる、現在を見たら、腰を抜かすのは必定である！ 学者が重宝がる希少価値としての遺産は、現在の生活文化と結びついていないし、学術的価値は高くても当時の生活文化の「上澄（すみ）み」にすぎず、メインシンボルにはなり得ない。「京都に近かつた」ことを、分権化とグローカリズムが叫ぶ

れ今日、自賛して何が出て来るのだろうか！

相良史研究の最前線と呼ぶべき「中世的九州の形成」（高志書院）で、著者の小川弘和学園大准教授は、「日本中世は南九州より始まった」とまて言明している。アカデミズムの最前線はどうの昔に脱京都中心主義を達成しており、東アジアからの視線を列島各地域へそそぐこと、即ちグローカリズムで価値判断しているのである。

今、我々球磨の住民は、当地が盆地に盾籠もった「隠れ里」などではなく、ダイナミックな力と文化の交錯するユニーク地であった史実をふまえて地域史を再解釈し、観光戦略をリセットすべき時なのである。

【やすだ・いさお／球磨郡多良木町】



# さあ、巡礼の旅に出よう。

相良三十三観音と人吉球磨の「日本遺産」を熱く語ったずしりと重いガイドブック

おもな内容  
観音さまベストテン巡礼  
健脚高齢者コース巡礼  
隠れ念仏巡礼  
山頭火と巡礼  
夏目友人帳聖地巡礼  
お彼岸でない日の巡礼  
「須恵村の女たち」を楽しむ巡礼  
人吉温泉と巡礼  
隠れキリシタン巡礼

■A5判/上製/400頁  
■定価 2,100円(税込)  
送料 200円  
※Amazonでも購入できます。

人吉中央出版社

〒868-0015 熊本県人吉市下城本町 1436-4 の 3 号  
TEL・FAX0966-23-3759 info@hitoyoshi.co.jp

# 考古学はドラマだ。

明治から昭和初期、肥後と球磨で練り広げられた考古学者たちの動静を記録した白熱のドキュメント



※九州内の紀伊国屋書店を中心に熊本市内の主要書店  
人吉球磨の書店 Amazonで取扱中

■発行元 人吉中央出版社  
■A5判/約600頁/上製本  
■定価 3,000円(+税) 送料 200円

## 俳句大学 Haiku University

### 今月の秀句

Selected Haiku of this Month

永田満徳選評・向瀬美音訳

<https://www.facebook.com/groups/1805562046390300/>

このコーナーは、「二行書きによる〈切れ〉と〈取り合わせ〉を取り入れた Haiku」を提案している『俳句大学』facebook ページからの転載です。

#### Haiku Column ③

Francoise Gabriel

●  
l'été tourne les talons  
des paqueûs d'écume quittent les vagues  
【Commented by Mitsunori Nagata】  
l'ecume qui reste dans un coin du cours  
semble exactement la charme de(été  
tourne les talons)Avec toriawase subtil je  
sens la lucidité de la sensibilité :

フランソワーズ ガブリエル

●  
夏は行く  
泡のまとまりは波を離れる  
【永田満徳評】  
流れの一角に留まっている泡が  
また流れ始める様子は、まさしく  
「夏行く」の風情である。微妙  
な取り合わせに鋭い感覚の冴え  
を感じる。

Starry Starry

●  
birds flying to warm land-  
mother crocheting winter clothes  
【Commented by Mitsunori NAGATA】  
The kigo(bird fling) implies it's autumn,  
when nights are getting longer. She  
describes a loving mother who is  
preparing for winter clothes to her  
children.

スターリー スターリー

●  
暖かな地へと渡る鳥  
冬の服をかぎ針編みする母  
【永田満徳評】  
すぐに、わずかな時間でも始め  
られる「かぎ針編み」で、「鳥  
渡る」、夜長の季節に「冬の服」  
を繕っている母の愛情が詠まれ  
ている。

Sylvie

●  
premier Kanji  
le sens de la rivi ere  
【Commented by Mitsunori NAGATA】  
Kanji de kawa est just trois lignes.  
Kawa est un Kanji que nous appronons  
pour le premier.Elle a appris ce Kanji et  
elle a su son sens.

シルビー

●  
初めての漢字  
川という意味  
【永田満徳評】  
川という漢字は縦に三本線を引  
くだけである。川ほど最初に習  
うのに適した漢字はない。漢字  
を知って、その意味も分かった  
のである。

【ながた・みつり/俳人協会会員、熊本市】

東京で「青雲の志」講演  
歯科医の松本晋一さん

人吉市の歯科医松本晋一さん(71)は、同市出身で近代西洋歯科医学の先駆者・一井正典(1862-1929年)に因んだ人吉市の人材育成事業「青雲



講演する松本さん(9月30日)

の志」を紹介する講演を9月30日、東京都で開かれた「日本歯科医史学会」で発表した。

同事業は、一井正典が明治時代に渡米し歯科医学を学んだことにちなんで、ゆかりの地であるアメリカに派遣し、グローバルな人材を

育成するため  
の事業で、3  
回目となる今  
年は市内在住  
の高校生と専  
門学校生を  
対象に7月1  
日から1カ月

間募集。19人が応募し作文と面接で6人が決まり、同25日には事前説明会も開かれた。

松本さんは、一井正典の歩みを紹介、顕彰する活動をしており、第1回目の育成事業から積極的に関わり、準備学習などのサポートを続けている。

講演では「平成の若きサムライたち 海を渡る―人吉市主催 “一井正典・星雲の志”のこれから」と題して、熊本県歯科医師会副会長の渡辺賢治さん(60・美里町)と連名で、同事業による高校生らの米



来年3月に派遣される生徒への事前説明会(9月25日)

国派遣の特徴と可能性を紹介した。なお、会場には松本さんの先輩である海老原望さん(72)も駆け付け旧交を温めたという。

⑩千代女の墓(慰霊碑)は(津奈木町)にある。



⑪リュウキンカ自生地の最南端地は(あさざり町)である。  
本誌17号83頁、観音寺遠『そらと陸の約束』(熊日出版)207頁参照

問4、下の写真の名称を答えよ

①眼鏡橋(津奈木町)  
(重盤岩眼鏡橋)  
本誌11号7頁以下参照

②公園(八代市坂本町)  
答(グリーン)パーク

球磨川右岸にある。直下に坂本橋がある。公園敷地、隣接する高橋医院、八代市坂本支所の敷地はすべて埋立地の上にある。明治29年12月11日から東肥製紙株式会社坂本工場の土地造成工事が開始し、排土などを同公園付近に捨て、のちには同会社の後継会社が製紙生産にともなう産業廃棄物の同地を廃棄場所とした。そのため地元では同地を「ガラ」とよんだ。「ガラ」はクズ(産業廃棄物)のこと。「坂本道の駅」(荒瀬地区)も破棄場所で「ガラ」とよばれた。「道の駅坂本」も埋立地である。埋め立て前、同公園附近の河原は「江戸(エゴ)の舟どまり」とよばれていた。廃棄場所は同時に製紙工場用の資材置き場でもあって、西日本製紙株式会社が解散し、製紙工場が坂本町から消滅するまでその状態が続いた。高橋医院は球磨地方の高橋酒造株式会社の高橋家の出身の医師が開設した。埋立地のため地盤が弱く、同地上の建築物は傾くなどしている。

③駅(人吉市)  
答(相良藩願成寺)駅  
本誌16号10頁以下参照

## 前号【くまがわ学習塾⑨の答え】

問1 熊本県知事になったことのある人物を5人挙げよ。(例：蒲島郁夫)

①桜井三郎

明治32年(1899)1月26日—昭和35年(1960)4月8日。新潟県出身。内務官僚を経て官選の熊本県知事(戦前)。戦後最初の公選知事。昭和22年(1947)4月16日から昭和34年(1959)2月10日まで連続3期つとめる。荒瀬ダム建設に力を注いだ。

②寺本広作

明治40年(1907)8月29日—平成4年(1992)4月7日。宇土郡不知火町出身。労働事務次官をつとめたあと政界に。事務次官時代の著作『労働基準法』は名著で、労働法学界で長く引用されている。「清正さんも12年、知事も12年」をスローガンにして桜井三郎の4選を阻止し知事に当選。昭和34年(1959)2月11日から昭和46年(1971)2月10日まで連続3期知事をつとめる。

③沢田一精

大正10年(1921)10月6日—平成28年(2016)3月4日。下益城郡小川町出身。経済安全保障本部(通称「安保(アンボン)」)に入り熊本県に出向。桜井知事のもとで荒瀬ダム建設に奔走した。4選を目指していた寺本広作に対抗して知事選出馬を表明し自民党公認を得る。その結果、寺本は4選を断念した。昭和46年(1971)2月11日から昭和58年(1983)2月10日まで連続3期つとめる。沢田は4選を目指したが、自民党の公認争いで細川護熙に破れて知事選への出馬を断念した。

④細川護熙

昭和13年(1938)1月4日、東京生まれ(戸籍は熊本)。朝日新聞記者を経て政治家になり、参議院議員(3期)つとめたあと知事選に出馬。昭和58年(1983)2月11日から平成3年(1991)2月10日まで連続2期知事をつとめ、その後、国政に移り、平成5年(1993)8月9日から平成6年(1994)4月28日まで内閣総理大臣をつとめた。

⑤福島讓二

昭和2年(1927)3月31日—平成12年(2000)2月25日。熊本市出身。大蔵官僚を経て政界に。6期連続して衆議院議員選挙で当選し、第1次海部内閣時に労働大臣をつとめる。平成3年(1991年1月)、細川護熙の国政転出表明を受け知事選に立候補し当選。同年(1991年)2月11日から連続3期知事に当選したが、3期日途中の平成12年(2000)2月25日、旅先(黒川温泉)で入浴中に急逝。

問2 小山勝清の作品を5点挙げよ。(例：『それからの武蔵』)

- ①『在る村の近世史』
- ②『農村問題原理』
- ③『明石大佐とロシア革命』
- ④『牛使いの少年』
- ⑤『彦一頓智話』 など

問3、次の場所が存在する市町村名を書け。(例：佐敷城跡は芦北町にある)

- ①槍倒しの瀬は(球磨村)にある。
- ②大王神社は(山江村)にある。
- ③日奈久温泉は(八代市)にある。
- ④くまがわ鉄道湯前線の川村駅は(相良村)にある。
- ⑤生善院(猫寺)は(水上村)にある。
- ⑥「湯〜とびあ」は(湯前町)にある。
- ⑦球磨地域振興局は(人吉市)にある。

熊本県の出先機関。八代地域振興局、芦北地域振興局ともに県南広域本部(八代市)の下にある。地域振興局は住民に直接かかわるサービス業務を担当し、広域本部は、広域的取り組みの推進、経験と知識を要する専門的業務を担当するとされている。熊本県広域本部設置条例(平成24年12月25日条例第59号)参照

⑧江戸相撲力士熊ヶ嶽猪之介の墓は(五木村)にある。

⑨別名「幽霊トンネル」は(芦北町)にある。

幽霊トンネルは旧国道3号線の「佐敷隧道」のこと。登録文化財



